東京帝國大學圖書之印

N11853/1911.

第一　訴訟取下ハ吟味ヲシテ消滅ニ歸セシムルモ訴權ハ消滅セシムルヲ以テ再ヒ訴フルヲ得ス

故ニ再ヒ訴訟ヲ提起スルヲ得ルナリ之ニ反シテ時効ヲ立ツルヲ得ス

訴訟取下ハ一个年ノ期限ヲ經過スルモ之ヲ繼續セシヲ申立ツルヲ得ス

ハ取下クスシテ之ヲ繼續スルヲ得可シ之ニ反シテ時効其他限ヲ經過スルヲ之ヲ回復スルヲ得サルナリ

第二編　第一審ノ訴訟手續

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　判決前ノ訴訟手續

第一條　訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　當事者及ヒ裁判所ノ表示
第二　起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ其請求ノ一定ノ原因
第三　一定ノ申立

此他訴狀ニハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ作リ且裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額ヲ掲ク可シ

〔義解〕（一七六）第百九十條迄ニテ一般ノ訴訟手續ヲ解キ終レリ是ヨリハ第一審ニ於ケル訴訟手續ノ事ヲ講說セン凡ソ訴訟ト云ヘル物ハ三個ノ原素ヲ要ス第一原告第二被告第三裁判官即チ是レナリ訴訟ハ此三個ノ原素ニ因テ成立スルカ故ニ其一ヲ欠クトキハ決シテ訴訟アリト云フヿヲ得ス假令ハ彼ノ憲法ノ如キハ政府ト人民トノ關係ヲ定メタルノミナレハ假令ヒ憲法ニ違反スト雖モ之ヲ裁判シテ裁制力ヲ加フルモノナシ故ニ憲法ニ反スト雖モ訴訟アリト云フヿヲ得サルナリ然レトモ此訴訟法ニ在リテハ必ス以上示シタル所ノ三者アルニ因リ其裁制力ヲ加フルヿヲ得ルナリ

訴訟ノ性質其レ斯ノ如シ訴訟ノ始期ハ如何ナルトキヲ以テ始マルカト云フニ第百九十條ニ規スルカ如ク訴狀ヲ裁判所ニ差出シタルトキヲ以テ訴訟ノ提起アリタルモノト見做ス此訴ノ提起アリタルモノト看做スヨリ生スルノ利益即チ左ノ如シ

第一　訴ヲ提起シタルトキハ時効ヲ中斷スルノ効ヲ生ス
第二　訴ノ提起アリタルトキハ善意ノ占有者ヲシテ惡意ノ占有者ニ變化セシムルノ効ヲ生ス

第三　訴ノ提起アリタルトキハ無利息ノ債權ヲシテ有利息ノ債權トナラシム

第四　確定物ノ債務者ヲシテ遲滯ニ置カシム

訴ノ提起ヨリ生スルノ効果以上陳フルカ如シ然リ而シテ其訴狀ハ如何ナル性質ヲ有スルモノナルヤヲ辨明センニ或ル國ノ訴訟法ニ於テハ書面審理ヲ主トスルカ故ニ事實及ヒ法律ノ適用ニ就キテ詳細ニ記載セシムルヿアリ然レトモ我訴訟法ニ於テハ書面審理ヲ主トセス只其訴訟ノ性質及ヒ方針ヲ知ラシムルヲ目的トスルカ故ニ訴狀ハ只其要領ヲ記スルニ止マリ決シテ詳細ニ渉ルヘキモノニ非ラス其訴訟ニ於ル詳細ノ事柄ハ口頭辯論ニ於テ爲スヲ原則ト爲ス即チ其訴狀ヲ記スル事項左ノ如シ

第一　當事者及ヒ裁判所ノ表示　當事者ヲ記スル所以ハ訴訟關係人ヲ知ラシムル爲メナレハ敢テ說明ヲ要セス又裁判所ノ表示ヲ記スル所以ノモノハ管轄違ヒナカラシムル爲メナリ

第二　起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ其請求ノ一定ノ原因　其起シタル請求ノ一定ノ目的物トハ即チ訴訟ノ目的物ヲ云フ假令ハ金何圓ヲ某ニ對シテ請求スト記スルカ如キ又家屋明渡シノ訴ニ在ツテハ何番地ノ家屋明渡シヲ請求セント云フカ如キ是レナリ又起シタル請求ノ一定ノ原因トハ訴ノ依テ起リタル基本ヲ云フ假令ハ貸金ノ催促ニ在ツテハ何年何月何日何割ノ利足ニテ一年間ノ契約ヲ以テ之ヲ貸附ケタルニ今以テ返濟セス故ニ之ヲ請求スト云フカ如キ又物品取戻シノ訴ニ在ツテハ曾テ其物品ヲ已ムヲ得サル事故アリテ附託シ置キタリトノ事ヲ記スルカ如キ又契約取消シノ訴ニ在リテハ曾テ此契約ハ余カ未丁年者ノ時取結

ヒタリ又錯誤暴行強迫ノ故ニ因テ之ヲ取消サント云フ如キ即是ソナリ其目的物及原因ヲ記スルコトハ最モ必要ニシテ訴訟ノ性質及ヒ方針ヲ知ラシムルノ上ニ於テ必ス是ヲ記セサル可ラス

第三　一定ノ申立　凡ソ訴訟ニハ種々ナル理由アレトモ其申立ニ至ツテハ一定ナラサル可カラス例ヘハ貸金催促ノ訴ニ於テハ何年ニ某ニ對シテ貸附ケタル金員ニ何割ノ利足ヲ附シテ請求セント云フ如キ又被告ニ在ツテハ原告ノ申立ヲ全部或ハ一部ヲ排斥センコトヲ請求スト云フ如キ是レナリ又控訴ニアツテハ原裁判ハ不法ニ就キ其全部御取消ノ上更ニ相當ノ裁判アリタシト請求シ被控訴人ニ在ツテハ原裁判相當ニ就キ控訴人ノ控訴棄却アリタシト云フカ如キ即チ一定ノ申立ナリトス此一定ノ申立ハ判決ノ基本トナルヘキヲ以テ必ス之ヲ爲サヽル可ラス若シ判事カ訴訟人ニ對シ此一定ノ申立ヲ成サシメスシテ直チニ事實ノ審問ニ取掛リタルトキハ手續ニ於ケル成規ノ違法ナリトス

訴狀ニハ以上三要件ヲ必スヤ記載セサル可カラス若シ其一ヲ欠クトキハ訴狀ノ性質ヲ有セサルモノトス此ノ他訴狀ニハ第百五條ニ從ヒ準備書面ノ要件ヲ記載セスト雖モ本條ノ三要件ヲ具備シタルニ於テハ無効トスヘキモノニアラス又裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價格ニヨリ定マル場合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニアラサルトキハ其價格ヲ掲ケサル可ラス之ヲ掲ケシムル所以ノモノハ訴訟物ノ價格ニ因テ裁判管轄ニ變更ヲ來スニ因ルナリ抑一定ノ金額ヲ以テ訴訟ノ目的物トスルトキハ其管轄ヲ定ムルニ於テ敢テ困難ヲ覺ヘスト雖モ一定ノ金額ニアラサルトキハ屢管轄上ニ就キ議論ヲ生スルヿアルヘシ故ニ訴訟ノ目的物ニシ

ヲ直接ニ金額ニ見積リ得可キトキハ其價額ヲ掲クルヿヲ要ス然レトモ其價額ヲ見積リテ管轄ヲ定ムヘキモノハ直接ノモノニ止マリ敢テ間接ノモノニ及ハス例ヘハ借家人ニ對シテ家屋ノ明渡シヲ請求スルカ如キハ直チニ其家屋ノ所有權ヲ爭フ者ニアラス只其立退キヲ命スル事ノ要求ナレハ即チ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノナリ然レトモ家屋ノ取戻シヲ請求スル場合ニ於テハ其所有權ヲ爭フモノナルヲ以テ即チ家屋ヲ價額ニ見積ラサル可ラス又例ヘハ山林伐採差拒ミノ訴訟ニ於テハ其山林ノ所有權ヲ爭フモノニ非ラサルヲ以テ即チ價格ニ見積ルコトヲ得サルモノナリ之ヲ要スルニ本條ニ所謂訴訟物カ一定ノ金額ニ非ラサルトキハ其價額ヲ掲クヘシト云フハ訴訟ノ目的物直接ニ金錢ニ見積ルコトヲ得ルトキハ其價額ヲ掲クヘシ訴訟ノ目的物直接ニアラスシテ間接ニ見積リ得可キ場合ニ於テハ必スシモ其價額ヲ見積ルヲ要スト云フノ意ニアラサルナリ

第百九十一條　同一ノ被告ニ對スル原告ノ請求數箇アル場合ニ於テ其各請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有シ且法律ニ於テ同一種類ノ訴訟手續ヲ許ストキハ原告ハ其請求ヲ一箇ノ訴ニ併合スルコトヲ得但民法ノ規定ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕（一七七）本條ハ第四十八條ノ共同訴訟ト相俟テ其用ヲ爲スモノナリ第四十八條第二ノ場合ニ於ケル同一ナル事實上ノ權利義務ニ關スルトキハ數人ヲ合シテ一箇ノ訴ト爲シ以テ請求スルコトヲ得ルノ規定ナリ故ニ第四十八條ニ於テハ人ト事物トヲ併合スルモ人ヲ併合スル者ニアラサルナリ即チ同一ナル被告ニ對シテ數个ノ請求權ヲ有スルトキハ之ヲ併合シテ一箇ノ訴ト爲シ以テ請求スルヿヲ得ルナ

リ此ノ設ケタル時日ト訴訟入費トヲ省クノ利益アリ然シテ斯ノ如ク數箇ノ請求ヲ併合セソニハ左ノ條件ヲ具備スルヿヲ要ス

第一　同一ノ原告ヨリ同一ノ被告ニ對シテ請求スルヿ

第二　其各箇ノ請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有スルヿ

第三　法律ニ於テ同一種類ノ訴訟手續ヲ許スヿ

請フ之ヲ左ニ詳述セソ

第一　數人ノ原告ヨリ數人ノ被告ニ對シテ訴ヘヲ起ス場合ニ於テハ第四十八條ノ共同訴訟ト爲スモ本條ニ依據スルヿヲ得ス本條ハ原告ヨリ被告ニ對シテ數箇ノ貸付金ヲ併合シテ一ノ訴ト爲シ以テ請求スル場合ヲ云フ例ヘハ甲ヨリ數度ニ乙ヘ貸金ヲ爲シタルヿ之ヲ併合シテ一箇ノ訴ヲ以テ請求スルカ如キ是レナリ

第二　各箇ノ請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有スルトハ如何ナル場合ヲ云フカ例ヘハ五十圓ッヽ三口ノ貸金アリタル場合ニ於テ之ヲ併合スルヿハ百五十圓ト爲ルヲ以テ地方裁判所ニ訴ヘ出ツルヿヲ得ルカ如キ場合ヲ指シタルモノナリ是レ同一種類ノ債主權ナルヲ以テ其受訴裁判所ハ管轄權ヲ有スルナリ然リ而シテ假令同一ノ原告ヨリ同一ノ被告ニ對スル場合ト雖モ受訴裁判所カ管轄權ヲ有セサルヿニ於テハ之ヲ併合シテ一箇ノ訴ト爲スヿヲ得サルナリ例ヘハ占有ニ關スル訴ト貸金トヲ併合シテ地方裁判所ニ訴ヘ出ツルヿヲ許サス何トナルニ占有ニ關スル訴ハ區裁判所ノ專屬管轄ナレハナリ之ヲ要スルニ其數箇ノ請求黙悉ク併合シ得可キ訴ヘナルヿハ之ヲ併合シテ訴ヘヲ提起スルヿヲ得ルモノト知ル可シ

第三　同一種類ノ訴訟手續トハ各箇ノ請求ヲ合併スルモ同一種類

ノ訴訟手續ニ由テ訴ヘヲ起シ得ルコトヲ云フ例ヘハ通常ノ手續ヲ以テ訴ヲ起ストキハ各箇ノ請求ニ付キ通常ノ訴訟手續ヲ用ヒ證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ由テ訴ヲ起ストキハ其手續ニ依ルコトヲ得ルモノヲ云フ故ニ通常ノ訴訟手續ト證書訴訟トヲ併合スルヿヲ許サヽルナリ

數箇ノ請求ニ對シテ之レカ併合ヲ許スト否ヤトノ場合ハ訴訟法ニ於テモ其區別アリ訴訟法ニ規定スルモ其區別アリ又民法ニ於テハ如何ト云フニ民法ニ於テモ性質上併合ヲ許サヽル場合アリ即チ占有ノ訴ト本權ノ訴トハ之ヲ併合スルコトヲ許サヽルナリ其他民法ニ於テ訴訟ノ併立ヲ許サヽル場合ニ在テハ本條ニ依據スルコトヲ得サルモノトス

第百九十二條　訴狀カ第百九十條第一號乃至第三號ノ規定ニ適セサルトキハ相當ノ期間ヲ定メ裁判長ノ命令ヲ以テ其期間內ニ欠缺ヲ補正ス可キコトヲ命ス若シ原告此命ニ從ハサルトキハ其期間ノ滿了後訴狀ヲ差戻ス可シ

此差戻ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十三條　訴狀カ第百九十條第一號乃至第三號ノ規定ニ適スルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ之ヲ被告ニ送達ス可シ

第百九十四條　訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ少クトモ二十日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キトキハ裁判長相當ノ

時間ヲ定ム

〔義解〕(一七八) 此ノ三條ニ就キテハ殆ント説明ヲ要セス只茲ニ一ノ論ス可キモノアリ法律ハ訴狀カ第百九十條ノ要件ニ適スルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ被告ニ送達ス可シトノミ言ヒテ其訴狀ノ提起アリタルヨリ何日間ニ送達ス可キモノナルヤヲ定メス故ニ訴狀ノ提出アリタルトキヨリ或ハ空シク裁判所ニ留メ置キ幾多ノ時日ヲ經過シタル後漸ク被告ニ送達スルコトアルモ原告ハ之レニ向テ異議ヲ述フルコトヲ得サルナリ法律ハ此ノ制限ヲ設ケサル故ニ訴ヘヲ起スト雖モ未タ訴狀ノ被告ニ到着セサル間ハ權利拘束ノ効ヲ生スルコト能ハス空シク訴狀ヲ書記局ニ留置カルヽコトアリ是レ實ニ原告ニ取リテハ不利益ナリトス故ニ訴狀ノ提起アルヤ法ニ適スルトキハ裁判所ハ必ス何日以内ニ被告ニ送達セサル可ラストノ明文ヲ設ケンコトヲ希望スルナリ

然レトモ法律ノ精神ハ以上ノ規定ナキカ爲メニ妄リニ訴狀ヲ書記局ニ留メ置クコトヲ得ルモノナリト考フ可ラス第百九十三條ヲ虛心平氣ニテ讀過スルトキハ何日以内ニ送達ス可シトノ明文ナキモ第百九十條ノ法式ニ適シタルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ之ヲ被告ニ送達ス可シトアルヲ以テ訴狀ノ提出アリタルトキハ書記局ニ於テ之ヲ調査シ法ニ適シタルトキハ直チニ之ヲ被告ニ送達セサル可ラス決シテ妄リニ之ヲ書記局ニ留メ置ク可キモノニアラサルナリ故ニ數日ヲ經過スルモ猶ホ之ヲ送達セサルニ於テハ原告ヨリ送達ノ申請ヲ爲スコトヲ得可シ幸ニ裁判所ハ何日以内トノ制限ナキヲ機トシテ其書類ヲ留メ置ク可ラサルナリ

第百九十五條　訴訟物ノ權利拘束ハ訴狀ノ送達ニ因

リテ生ス

權利拘束ハ左ノ効力ヲ有ス

第一　權利拘束ノ繼續中原告若クハ被告ヨリ同一ノ訴訟物ニ付キ他ノ裁判所ニ於テ本訴又ハ反訴ヲ以テ請求ヲ爲シタルトキハ相手方ハ權利拘束ノ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二　受訴裁判所ノ管轄ハ訴訟物ノ價額ノ增減住所ノ變更其他管轄ヲ定ムル事情ノ變更ニ因リテ變換スルコト無シ

第三　原告ハ訴ノ原因ヲ變更スル權利ナシ但變更シタル訴ニ對シ本案ノ口頭辯論前被告カ異議ヲ述ヘサルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕（一七九）本條ハ最モ必要ノ事項ヲ規定セシモノナリ訴ノ提起ヨリ生スルノ効果ハ既ニ前ニ述ヘタルカ尙ホ權利拘束ニ至ルトキハ左ノ手續上ノ効力ヲ生スルモノナリ

訴訟物件ノ拘束トハ原告及ヒ被告ハ提起セラレタル訴訟ニ基キ受訴裁判所ニ於テ法律上訴訟人タルノ關係ヲ有スルヲ云フ而シテ此ノ關係ヲ有セシメンニハ被告ニ訴狀ノ送達アルコトヲ必要ト爲スナリ訴狀ノ送達アリタルトキハ訴訟上ノ効力ヲ生ス又訴狀ノ送達ナキモ權利拘束ノ効ヲ生スルコトアリ即チ區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ例外トシテ口頭ノ演述ヲ以テ訴ノ提起ヲ爲スコトアリ此ノ場合ニ於テハ演述ノ終ハルヤ權利拘束ニ至ルモノナリ又口頭辯論ヲ爲ス際ニ於テ訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ反訴ヲ爲シタルトキハ此ノ時ヨリ權利拘束ノ効ヲ有スルナリ此ノ拘束ハ訴ヲ起シタルトキヨリ確定判決ニ至ル迄

又ハ其他ノ方法ニヨリ訴訟ノ完結ニ至ル迄繼續スルモノトス其拘束ノ効果ヲ左ニ說ク可シ

第一　權利拘束繼續中ハ第三者ヨリ其物件ニ付キ訴訟ヲ起スモ被告ハ妨訴ノ抗辯ヲ以テ訴訟ノ審理ヲ拒ムコトヲ得ルナリ又權利拘束ト爲リタルトキ同一ノ事件ニ對シ他ノ裁判所ニ向ヒ本訴又ハ反訴ヲ以テ請求シタルトキハ此ノ事件ハ既ニ權利拘束ト爲リ居ル旨ヲ述ヘテ訴訟ノ審理ヲ拒ムコトヲ得ルナリ畢竟權利拘束ノ姿ニ至ルトキハ妨訴抗辯ノ一種ト爲ルモノニシテ然シテ其之ヲ以テ妨訴抗辯ニ供シ得ル所以ノ理由ハ實ニ二個ノ基本ヨリ出テタルモノナリ第一ハ判決ノ矛盾ヲ防キタルモノナリ夫レ既ニ甲裁判所ニ訴ヘラレテ權利拘束ト爲リタル目的物ニ對シテ復タ同時ニ乙裁判所ニ訴ヘラルヽコトアラハ甲乙二個ノ裁判所ハ或ハ全ク反對ノ判決ヲ爲スヤモ知ル可ラス然ルトキハ判決ノ執行上不都合ヲ見ルニ至ラン是レ妨訴抗辯ヲ以テ其一ノ訴ノ審理ヲ止ムルヲ得セシメタル所以ナリ第二ハ一事ヲ再理セストノ觀念ニ出テタルモノナリ一事ヲ同時ニ審判スルコトハ決シテ法律ノ希望スル所ニアラサルナリ

第二　一タヒ適法ニ受理シタル以上ハ其後ニ至リ訴訟物ノ價格ニ增減ヲ爲シ當事者ノ住所ニ變更ヲ來タシ其他管轄上ノ事ニ付キ變更ヲ來スコトアリト雖モ決シテ事件ニ影響ヲ爲スコトナシ是レ亦權利拘束ノ効果ナリトス

第三　一タヒ訴ヲ起シテ權利拘束ト爲リタル以上ハ原告ハ隨意ニ其訴ノ原因ヲ變更スルノ權ナシ例ヘハ先キニハ養父ヨリ養子ニ對シテ養料請求ノ訴ヘヲ起シ權利拘束ト爲リタル後之ヲ變更シ

ヲ離別ノ訴ト爲スカ如キコトハ其訴ノ原因ヲ變更スルモノナルヲ以テ原告ハ之ヲ變更スルノ權ヲ有セス然レモ本條ノ口頭辯論前ニ於テ被告カ異議ヲ述ヘサリシトキハ暗ニ之ヲ承諾シタルモノト爲シ其原告カ新ナル陳述ヲ爲シタルトキヨリ被告ニ對シテ權利拘束ト爲ルモノナリ此ノ事ハ第一審ト第二審トヲ問ハス何レノ場合ニ於テモ對手人カ承諾スルトキハ訴ノ原因ヲ變更スルコトヲ許スヤ如何曰ク上級審ニ於テハ假令對手人ノ承諾アルトキト雖モ訴訟ヲ變更スルコトヲ許サス若シ上級審ニ於テ之ヲ許ストキハ上級審ノ性質ニ反スルニ至ル其故ハ上級審ニ於テハ下級審ノ審理其法ニ適シタルヤ否ヤヲ見ルモノニシテ新訴ヲ審理判決スル所ニアラサルナリ

第百九十六條　原告カ訴ノ原因ヲ變更セスシテ左ノ諸件ヲ爲ストキハ被告ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第一　事業上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト

第二　本案又ハ附帶請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルコト

第三　最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルコト

〔義解〕（一八〇）本條ハ前條第三ノ場合ニ應スルモノニシテ訴ノ原因トハ如何ナル區域迄ヲ云ヒタルモノナルヤヲ説明シタルモノナリ抑原告ハ訴ノ原因ヲ變更スルノ權ナシト雖モ其訴旨ヲ擴張スルカ如キ又之ヲ減縮スルカ如キコトハ自由ニ爲シ得ルモノナリ其訴ノ原因トハ權利義務ノ性質ヲ云フ例ヘハ爲替手形ノ訴訟ヲ爲シタルニ中途之

ヲ變更シテ通常貸借トスルコトヲ得ス又物品取戻ノ訴ニ於テ最初附託シ置キタルノ理由ヲ以テ取戻ヲ訴ヘ後之ヲ變シテ被告ハ恩義ヲ忘却シタルニ因リ其贈與物ヲ取戻スト云フコトヲ得ス此等ハ皆訴ノ原因ヲ變更スルモノナルヲ以テ原告ハ自由ニ之ヲ變更スルノ權ナシ然レトモ左ニ掲クル所ノモノハ訴ノ原因ニ關係セサルモノナルヲ以テ被告ハ之レカ爲メニ異議ヲ述フルコトヲ得サルナリ

第一　事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充スルカ如キ又ハ之ヲ更正スルカ如キハ訴ノ原因ニ關係セサルヲ以テ之ヲ爲スモ敢テ被告人ニ不利益ヲ掛ケサルモノナリ例ヘハ最初訴ヘタルトキハ元金ノミナレトモ利息ノ生ス可キ性質ノ貸金ナルトキハ其後ニ至リ利息ヲ請求スルカ如キ又ハ最初明治二十四年一月貸附ケタルモノナルヲ以テ其利息ハ斯々ナリトシテ求メタルニ其後貸付ケタルハ二十四年ノ二月ナリト更正スルカ如キ是レ訴ノ原因ヲ變更スルモノニアラサルナリ又法律上ノ申述ヲ補充スルトハ抑後見人ナルモノハ法律上ノ代理人ナルヲ以テ獨立シテ訴訟ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノナリト主張シ其後ニ至リ況ンヤ親族會議ノ許可ヲ受ケタルニ於テハ其訴訟能力ヲ有スルコト更ニ論ヲ俟タサルナリト補充スルカ如キ是レ即チ法律上ノ理由ヲ補充スルモノナリ其他理由ヲ更正スルカ如キモ原告ノ自由ニ爲シ得ル所ナリ

第二　本條ハ附帶ノ請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルトハ目的物ノ原因ヲ變更セスシテ增減スルコトヲ云フ例ヘハ最初金五百圓ヲ請求シタルニ其後ニ至リ金六百圓ヲ請求スルカ如キ又之ヲ減シテ四百圓ト爲スカ如キ是レナリ

第三　最初求メタル者ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルヿトハ

最初物品ノ取戻ヲ訴ヘタルニ被告ノ過失ニヨリ訴訟中其物品ヲシテ滅盡ニ歸セシメタルカ如キ是レナリ此レ等ハ最初ノ訴トハ其目的物ヲ異ニスト雖モ其原因ニ至テハ同一ナリ即チ最初ハ物權ヲ以テ物品ノ取戻ヲ訴ヘタルモノナリ後ニハ人權ヲ以テ損害賠償ヲ請求スルモノナリ其權利ニ至テハ異ナリト雖モ其原因ニ至テハ更ニ變更セサルモノナルヲ以テ被告ハ異議ヲ唱フルコトヲ得サルナリ

第百九十七條 訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百九十八條 訴ノ全部又ハ一分ハ本案ニ付キ被告ノ第一口頭辯論ノ始マルマテハ被告ノ承諾ナクシテ之ヲ取下ケ又其後口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ得テ之ヲ取下クルコトヲ得

訴ノ取下ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

訴狀ヲ既ニ送達シタル場合ニ於テハ訴取下ノ書面ハ之ヲ被告ニ送達ス可シ

適法ナル取下ハ權利拘束ノ總テノ効力ヲ消滅セシムル結果ヲ生ス

取下ケタル訴ヲ再ヒ起シタルトキハ被告ハ前訴訟費用ノ辨濟ヲ受クルマテ應訴ヲ拒ムコトヲ得

〔義解〕(一八一) 第百九十七條ハ訴ノ原因ニ變更ナキヤ否ヤニ付キ爭ヒノアリタル場合ニ於テ中間判決ヲ下ス場合ヲ定メタルモノナリ原告ヨリハ訴ノ原因ヲ變更スルヿナシト主張スルモ被告ハ之ヲ變更シ

ザルモノナリト抗辯スルトキハ遂ニ其中間判決ヲ下サヽル可ラス此ノ中間判決ニ就テハ通常妨訴ノ抗辯ニ於ケルカ如ク上訴スルヿヲ許スヲ以テ至當タルカ如シト雖モ法律ハ茲ニ一ノ制限ヲ設ケ訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サストセリ此ノ理由タルヤ他ナシ若シ通常妨訴ノ抗辯ニ於ケル判決ト同一ニスルトキハ被告ハ如何ナル場合ト雖モ訴ノ原因ニ變更アリト唱ヘ以テ上訴ヲ爲スニ至ル可シ然ルトキハ徒ラニ事件ノ終局ヲ告クル能ハサルノ弊害ヲ見ルナリ故ニ法律ハ訴ノ原因ニ變更ナシトスルノ裁判所ニ向テハ獨立シテ上訴スルヿヲ許サヽルハ勿論本條ノ上訴ト共ニ其不服ヲ申立ツルヿヲモ許サヽルナリ然レモ被告ノ抗辯ニヨリ訴ノ原因ニ變更アリトスルノ裁判ニ對シテハ上訴スルヿヲ許スモノト解ス可キナリ其故ハ訴ノ原因ニ變更アリトスルトキハ原告ノ權利ニ大ナル影響ヲ及スモノニシテ原告ハ之レカ爲メニ別ニ訴ヲ起サヽル可カラサルニ至ル故ニ此ノ場合ニ於テハ獨立シテ上訴ヲ許ス可キモノトス然シテ上訴審ニ於テハ果シテ訴ノ原因ニ變更アルヤ否ヤヲ審判セサル可カラサルナリ

第百九十八條ハ原告ノ權利ノ効力ヲ示シタルモノナリ原告ハ起訴者ナルヲ以テ訴ヲ放棄スルト否ヤトハ其自由ニ在リ然レトモ全ク之ヲ原告ノ隨意ニ放任スルトキハ却テ被告ノ希望ヲ害スルコトアル可キヲ以テ法律ハ茲ニ一ノ制限ヲ設ケタリ即チ口頭辯論ノ始マルマテハ被告ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得ルモ口頭辯論ヲ開キタル後ニ於テハ被告ノ承諾アラサルニ於テハ之ヲ取下クルコトヲ得ス此ノ如ク制限ヲ設ケタル所以ノ理由ハ未タ口頭辯論ヲ爲サヽルニ於テハ原告ノ請求權ニ對シテ被告ハ未タ申立ヲ爲サヽルニヨリ權利結託

ノ態ニ至ラサルヲ以テ其訴ヲ取下クルモ被告ノ意志ニ反セサルナリ
然レトモ既ニ口頭辯論ヲ爲シ議論ヲ闘ハシテ權利結託ニ至リタルトキハ其結果トシテ是非ヲ判決セサル可ラサルニ至ル加之ナラス被告モ既ニ辯論ヲ爲シタル以上ハ或ハ判決ヲ受ケテ其是非ヲ明確ナラシメンコトヲ希望スルコトアル可シ然ルニ口頭辯論ヲ爲シタル後自己ノ隨意ヲ以テ訴ヲ取下クルコトアラハ被告人ノ意志ヲ害スルニ至ラン是レ法律ハ口頭辯論ヲ開キタル後ハ被告ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ取下クルコトヲ得スト爲セシ所以ナリ
第百九十八條ノ第二項第三項ニ付テハ説明ス可キ所ナシ以上ノ如ク訴ヲ取下ケタルトキハ權利拘束ニ因リテ生スル凡ヘテノ効力ヲシテ消滅ニ歸セシムル是レ訴ヘヲ未タ起サヽルノトキニ復歸スルモノナレハ固ヨリ當然ナリトス

既ニ取下ケタル訴ヲ再ヒ提起スルトキハ被告ハ前訴訟費用ノ辨濟ヲ受クルニアラサレハ應訴ヲ拒ムコトヲ得ルナリ是レ妨訴抗辯ノ一ナリトス茲ニ一ノ注意ス可キモノアリ權利ノ放棄ト訴ノ取下トヲ混同ス可ラサルヿ是レナリ訴ノ取下ハ一時其訴訟ヲ取下クルノミニシテ訴訟ノ實躰ヲシテ消滅セシムルモノニアラス故ニ後日再ヒ訴ヘラルヽノ恐レアリ權利ノ放棄ハ實躰ヲシテ消滅ニ歸セシムルモノナルヲ以テ再ヒ訴ヲ起サルヽノ恐ナキモノトス

第百九十九條　訴狀送達ノ際十四日ノ期限内ニ答辯書ヲ差出ス可キコトヲ被告ニ催告ス可シ

答辯書ニハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ヲ適用ス」

〔義解〕（一八二）書面審理ヲ主トスル場合ニ於テハ被告カ答辯書ヲ差出サヽルキハ被告ニ解怠アリタルモノト爲シ幾分ノ不利益ヲ來シタ

ルモ訴訟法ノ主義ニ於テハ書面審理ヲ主トセス口頭審理ヲ主トスルカ故ニ假令答辯書ヲ本條ノ規定ニ從ヒテ差出スト雖モ口頭辯論期日ニ出廷セサルトキハ欠席判決ヲ受クサル可ラサルニ至ル去レハ十四日ノ期限内ニ差出ス可シト云フモ之ヲ差出スト差出サヽルトハ被告ノ隨意ニ在リ良シヤ答辯書ヲ差出サスト雖モ口頭辯論期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲ストキハ懈怠ト見做サルヽナキモノトス

第二百條　訴カ管轄裁判所ニ於テ權利拘束ト爲リタルトキハ被告ハ原告ニ對シ其裁判所ニ反訴ヲ起スコトヲ得

然レトモ財産權上ノ例ノ請求ニ非サル請求ニ係ル反訴又ハ目的物ニ付キ專屬管轄ノ規定アル反訴ハ若シ其反訴カ本訴ナルトキ其裁判所ニ於テ管轄權ヲ有ス可キ場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

反訴ニ對シテハ更ニ反訴ヲ爲スコトヲ得ス

〔義解〕（一八三）本條ハ反訴ノ規定ヲ爲シタルモノナリ反訴ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一　本訴ヲ管轄裁判所ヘ提起シ權利拘束ト爲リタルヿ

第二　法律上反訴ヲ起シ得可キ場合ナルヿ

第三　被告ヨリ原告ニ對スル請求ナルヿ

以上ノ三條件ヲ具備スルニ於テハ反訴ヲ爲スヿヲ得可シ請フ之ヲ左ニ陳述セン

第一　權利拘束ト爲ルニハ適法ノ受理ナルヿヲ要ス即チ管轄裁判所ニ本訴ヲ起シタルヿヲ要ス故ニ若シ管轄外ノ裁判所ヘ訴ヘヲ起シタルトキ被告ニ於テ抗辯ヲ爲ストキハ權利拘束ト爲ラサルナリ

未タ權利拘束ト爲リタルニアラスンハ被告ヨリ反訴ヲ爲スヿヲ得サルナリ

第二　通常ノ場合ニ於テハ本案ニ向テ反訴ヲ許スモノナレトモ法律上反訴ヲ許サヽル場合アリ本條第二項ノ規定是レナリ凡ソ事件ニハ其性質ニ依リテ專屬管轄ト爲スモノアリ例ヘハ不動產訴訟ノ如キ又人事ニ關スル訴訟ノ如キニ在テハ當事者ノ合意ニヨリ其管轄ノ變更ヲ許サヽルモノナリ此等專屬管轄ノ事件ヲ以テ反訴スルトキハ本案ノ請求ハ管轄裁判所ナルモ反訴ハ管轄ニ非サルヲ以テ之ヲ反訴トシテ請求スルヿヲ得サルナリ故ニ例ヘハ原告ヨリ養料ノ請求ヲ爲シタルトキ被告ハ反訴シテ原告ハ宜シク子タルノ身分ヲ認ムヘシト言フ如キトキハ其養料請求ノ訴ハ金錢上ノ訴ヘナルヲ以テ合意ニ因リ管轄ヲ變更スルヿヲ得ルモ身分認定ノ請求ニ至テハ專屬管轄ナルヲ以テ之ヲ反訴トスルヲ許サス是レ本條第二項ノ制限ナリ然レトモ其身分認定ノ請求カ本訴トシテ起シタルトキニ當リ管轄ナルトキハ反訴トスルヿヲ許スナリ之ヲ要スルニ專屬管轄ノ事件ニ係ルトキハ其反訴モ亦法律上ノ管轄ニ係ル可キヿヲ制限トス

第三　反訴ハ附帶請求トハ異ナリテ必スヤ被告ヨリ之ヲ爲スモノナリ故ニ被告ヨリ請求スルモノニアラスンハ反訴ト云フコトヲ得サルナリ

本條第三項ハ實ニ反訴ノ性質ヲ云ヒタルモノナリ反訴ハ被告ヨリ原告ニ對シテ爲スモノナレハ則チ被告ノ爲シタル反訴ニ對シ原告ヨリ更ニ反訴ヲ爲スハ是レ反訴ノ性質ニ背クノ要求タリ故ニ反訴ニ對シテハ更ニ反訴ヲ爲スコトヲ許サヽルナリ

第二百一條　反訴ハ答辯書若クハ特別ノ書面ヲ以テ又ハ口頭辯論中相手方ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ答辯書差出ノ期限內ニ差出シタル書面ヲ以テ起ササル反訴ハ被告ノ請求ノ全部又ハ一分ト相殺ヲ爲ス可キ場合ニ於テ同時ニ被告カ自己ノ過失ニ因ラスシテ其以前反訴ヲ起スヲ得サリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第二百二條　訴ニ關スル此法律ノ規定ハ反訴ニ之ヲ適用ス但其規定ニ因リ差異ノ生ス可キトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕（一八四）此ノ二條ハ反訴ヲ提起スル方法ヲ定メタルモノナリ

反訴ハ答辯書ノ中ニ記入シテ之ヲ起スコトヲ得可ク若クハ特別ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可ク又ハ口頭辯論中相手方ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲモ得可シ然レトモ訴訟ノ進行其如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス反訴ノ提起ヲ許ストキハ訴訟ヲ遲滯セシムルノ恐レアルヲ以テ第二百一條第二項ニ於テ之ヲ制限セリ即チ答辯書差出ノ期限內ニ於テ反訴ヲ提起スルコトヲ原則ト爲セリ若シ其答辯書差出ノ期間內ニ反訴ヲ出サヽルトキハ一切之ヲ許サヽルカト云フニ法律ハ二个ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ許ス可キモノトセリ

第一　請求ノ全部又ハ一分ト相殺ヲ爲シ得可キ場合ナルコト

第二　被告カ自己ノ過失ニ因ラスシテ其以前反訴ヲ起スヲ得サリシヿヲ疏明スルヿ

此二條件ヲ具備スルニ於テハ答辯書差出期間後ト雖モ反訴ノ提起ヲ

許スナリ其相殺シ得可キ場合ニ於テ之ヲ許ス所以ノ者ハ相殺ノキハ其請求額明確ニシテ何時ニ於テ之ヲ許スモ敢テ訴訟ノ遲延ヲ來スナシ即チ民法財產編第五百二十條ニ曰ク二個ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得可キモノ明確ナルモノ及ヒ要求スルヲ得可キモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意志ヲ以テ其相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハルト去レハ相殺シ得可キ場合ニ於テハ何時ニテモ訴訟ノ提起ヲ許スナリ然レ𪜈如何ニ相殺シ得可キ場合ト雖モ故ラニ最初ニ之ヲ提起セス被告ニ過失アル𪜈ハ之ヲ許スヿヲ得ス故ニ被告カ自己ノ過失ニヨラスシテ最初之ヲ提起セサルヿヲ疏明セサル可ラサルナリ

反訴モ亦一ノ訴ヘナルヲ以テ反訴提起ニ關スル手續ハ矢張リ一般ニ訴ヘニ關スル諸手續ト同一ナリ然レ𪜈訴狀送達ノ如キ又其送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ於ケル期間ノ如キハ强チ反訴ニ適用スルノ限リニアラサルナリ

第二百三條　裁判長ハ申立ニ因リ其命令ヲ以テ第百九十九條ニ定メタル期間ヲ相當ニ短縮若クハ伸長シ又第百九十四條ニ定メタル時間ヲ切迫ナル危險ノ場合ニ限リ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

前項時間ノ短縮ハ此カ爲メ答辯書ヲ差出スコトヲ得サルトキト雖モ亦之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ規定ハ第百六十七條ニ揭ケタル規定ヲ妨ケス

〔義解〕（一八五）抑答辯書差出期間ノ如キ送達ト口頭辯論トノ間ニ存スル期間ノ如キハ法律上ノ期間ナリト雖モ當事者ノ申立ニヨリ其ノ

命令ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得ルナリ然レトモ八里ニ付キ一日ノ猶豫ヲ與フル期間ノ如キハ之ヲ伸縮スルコトヲ得サルナリ是レ法律カ第百六十七條ニ掲ケタル規定ヲ妨ケスト記シタル所以ナリ

第二百四條　各當事者ハ訴狀又ハ答辯書ニ掲ケサリシ事實上ノ主張若クハ證據方法又ハ申立ニ付キ相手方カ豫メ穿鑿ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲ス能ハスト豫知スル事項アルトキハ口頭辯論ノ前ニ書面ニテ差出ス可シ但其書面ヲ相手方ニ送達スル時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ爲ス時間ヲ得セシム可シ

口頭辯論ノ延期ヲ爲ストキハ裁判所ハ爾後必要ナル準備書面ヲ差出ス可キ期間ヲ定ムルコトヲ得

〔義解〕（一八六）本條ノ目的ハ訴訟ハ雙方共充分ノ準備ヲ爲サシメ充分ノ辯論ヲ爲サシムルニ在リ若シ其レ不意ニ怪ム可キノ事實又ハ證據ヲ提出スルコトアルトキハ其相手方ハ之ヲ辯解スル能ハサルコトアル可シ然ルニ此機ニ乘シテ辯論ヲ爲シ相手方ヲシテ充分ノ辯論ヲ爲サシメサルコトアルトキハ裁判上充分ノ審理ヲ盡クシタルモノト言フコトヲ得ス是レ本條ニ於テ訴狀又ハ答辯書ニ掲ケサル事實上ノ主張又ハ證據方法ニシテ相手方カ豫メ準備スルニアラスソハ陳述ヲ爲スコト能ハスト思料スル事項ニ係ルトキハ口頭辯論前ニ書面ニテ差出ス可シト規定シタル所以ナリ故ニ若シ此等ノ事項ヲ突然口頭辯論ノ日ニ於テ差出シ辯論ヲ爲スコトアラハ相手方ハ其辯論ヲ拒ムコトヲ得ルナリ且ツ其辯論ヲ拒ミ裁判長ニ於テ其申立ヲ理アリト爲シ口頭辯論期日ヲ延期シタルトキハ裁判長ハ同時ニ其突然證據ヲ提出

シタル一方ニ向テ相手方ノ出廷ノ費用ヲ負擔セシムルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルナリ要スルニ本條ノ目的ハ正々堂々ノ陣ヲ張リテ然シテ充分ノ戰爭ヲ爲シ以テ其是非曲直ヲ決ス可シト云フニ在ルナリ

第二百五條　口頭辯論ハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第二百六條　妨訴ノ抗辯ハ本案ニ付テノ被告ノ辯論前同時ニ之ヲ提出ス可シ

左ニ掲クルモノヲ妨訴ノ抗辯トス

第一　無訴權ノ抗辯

第二　裁判所管轄違ノ抗辯

第三　權利拘束ノ抗辯

第四　訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯

第五　訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯

第六　再訴ニ付キ前訴訟費用未濟ノ抗辯

第七　延期ノ抗辯

本案ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有効ニ拋棄スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得

〔義解〕《一八七》第二百五條ニ付テハ更ニ説明ス可キモノナシ第二百六條ハ訴訟手續中最モ必要ノ箇條ナルヲ以テ之ヲ詳細ニ説明スルヲ必要ト爲ス左ニ之ヲ説明ス可シ

蓋シ訴訟辯論ニハ二個ノ手段アリ曰ク答辯曰ク妨訴ノ抗辯是レナリ答辯トハ原告ノ請求ハ權利ナキヲ以テ之ヲ原告敗訴ノ言渡アランコトヲ求ムト云フカ如キ又ハ單ニ原告ノ請求ニ應スルコト能ハスト答辯スルカ如キヲ云フ妨訴ノ抗辯トハ原告ハ果シテ請求ノ權利ヲ有スルヤ將タ其請求ハ理由アルヤ否ヤニ向テ答辯ヲ爲スニアラス或ル條件ノ發生スル迄訴求ノ却下ヲ求ムルヲ云フ故ニ答辯ハ本案ニ對シテ爲スモノタリ抗辯ハ本案ニ對スルニアラスシテ訴訟手續ノ欠缺ニ向テ爲スモノタリ妨訴ノ抗辯ヲ爲スニ付テハ二個ノ遵守ス可キ規則アリ

第一　被告ノ本案ニ對シテ辯論ヲ爲ス前ニ抗辯ヲ提出スルヿ

第二　數箇ノ抗辯ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ提出スルヿ

妨訴抗辯ヲ爲サンニハ必ス此ノ二個ノ規則ニ從ハサル可ラス其被告ノ辯論前トハ如何ナル時期ヲ云ヒタルモノナルヤト云フニ原告ヨリ一定ノ申立ヲ爲シ尚ホ本條ノ辯論ヲ爲スト雖モ被告ニ於テ未タ辯論ヲ始メサルトキヲ云フ被告カ既ニ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ妨訴抗辯ノ提出ヲ許サヽルヲ以テ原則ト爲ス其數個ノ抗辯方法ヲ有スルニ於テ之ヲ同時ニ提出セシムルヲ必要ト爲ス所以ハ矢張リ本案ノ辯論前ニ提出スルヲ本則ト爲シタルヨリ生スルモノニシテ若シ漸次ニ之ヲ提出スルヿヲ許スニ於テハ訴訟進行ノ段落錯雜シテ遂ニ妨訴抗辯ノ利益ヲ失ヒ訴訟ノ進行ヲ妨クルニ至ル可シ故ニ數個ノ抗辯ヲ同時ニ提出セサルニ於テハ其既ニ提出シタルモノハ効力ヲ保ツモ其提出セサル抗辯方法ハ遂ニ提出スルヲ許サヽルモノトス我カ訴訟法ノ認メタル妨訴抗辯ハ即チ左ノ如シ

第一　無訴權ノ抗辯　此ノ種ノ抗辯ニ至テハ或ハ廣ク解釋スルモ

ノアリ或ハ狹ク解釋スルモノアリテ其說ク所各異同アリ或ハ曰ク無訴權ノ抗辯トハ司法行政裁判所ノ混同ヲ來シタルトニ於テ爲スモノヲ云フ即チ行政裁判所ニ屬ス可キモノヲ司法裁判所ニ訴ヘタルカ如キ場合ニ於テハ無訴權ノ抗辯ヲ以テ其訴ヲ排斥セシムルコトヲ得ルナリト是レ未タ其審理ヲ盡サヽルノ解ト言ハサル可ラス行政裁判所ニ訴ヘ出ツ可キ事件ヲ司法裁判所ニ訴ヘタルトキノ如キハ所謂管轄違ニシテ無訴權ニアラサルナリ夫レ司法裁判所ト云ヒ行政裁判所ト云フ均シク裁判所タリ只其事件ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ裁判管轄ヲ異ニスルノミナリ或ハ曰ク無訴權ノ抗辯トハ請求ノ權利ナキニ訴ヘヲ起シタル如キ場合ヲ云フ例ヘハ既ニ時効ニ至リタル債權ヲ以テ訴ヘヲ起シタルカ如キ或ハ天災時變ニ依テ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其被害者ヨリ

何りなえノ為ノ訴訟ノ目的ヲ失フ事ナシ
(二三五)設ケルトキハ

損害賠償ヲ請求シ來リタルトキハ人爲ニアラス天災ナリトノ理由ヲ以テ抗辯スルカ如キ是レ無訴權ノ抗辯ナリト此ノ解釋ニ依ルトキハ凡ソ如何ナル事件ト雖モ被告カ原告ノ請求ニ應スルコト能ハスト言フ場合ニ於テハ皆悉ク無訴權ノ抗辯ト爲ルニ至ル可シ何トナルニ前ニ示シタル既ニ時効ヲ得タル債權ナリト言フカ如キハ義務免脫ノ答辯ナルヲ以テ本案ノ答辯ナリトス又此ノ損害ノ生シタル起因ハ天災ナルヤ將タ人爲ナルヤハ義務ノ成立ニ關スル問題ナルヲ以テ是レ亦本案ノ答辯ナリトス故ニ此說亦採用スルヲ得サルモノタリ然ラハ法律カ茲ニ言フ所ノ無訴權ノ抗辯トハ如何ナル場合ヲ云ヒタルモノナルヤ曰ク純然タル行政處分ニ屬ス可キモノヲ裁判所ヘ訴ヘ出テタルカ如キ場合ヲ云フ例ヘハ行政裁判所ニモ亦司法裁判所ニモ訴ヘ出ツルコト能ハサ

ルモノアリ即チ國家ノ行政機關ノ處分ニ一任シタル事件ニシテ人々ハ其處分ニ向ヒ請願若クハ訴願スルコトヲ得ルモ權利トシテ訴フルヲ得サルモノヽ如キ事件ニ對シ訴ヘ出テタルトキハ是レ所謂無訴權ナリ例ヘハ小學校教員ヲ任免黜陟スルハ府縣知事ノ權內ニ在リ然ルニ其任免ヲ不服トシテ訴ヘタルカ如キ行政官吏カ自己ノ見聞シタル事實ヲ認メテ之ヲ上級官吏ニ報告シタルニ人民ハ其報告ニ付キ不服ヲ抱キ其訂正若クハ取消ヲ訴フルカ如キ又裁判官ノ爲シタル裁判ヲ不當ナリトシテ其裁判官ヲ相手トシテ訴ヘ出テタルカ如キ寺院一切ノ事柄ハ管長ニ於テ處分スル事ナルニ之ヲ不服トシテ司法若クハ行政裁判所ニ訴ヘタルカ如キ等ノ場合ハ皆無訴權ナルヲ以テ本條第一號ニ依リテ抗辯スルヿヲ得ルナリ

第二　管轄違ノ抗辯　事物ノ管轄ナルト又土地ノ管轄ナルトヲ問ハス管轄違ナリトノ抗辯ヲ以テ本案ノ答辯ヲ拒ムヿヲ得ルモノナリ

第三　權利拘束ノ抗辯　拘束ノ抗辯トハ第百九十五條第一項ノ場合ニ於テ爲スモノヲ云フ是レハ既ニ前ニ辯明シタルヲ以テ茲ニ贅セス

第四　訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理欠缺ノ抗辯　裁判ハ適法ノ能力ヲ有シタル者ノ間ニ言渡シタルニアラスンハ其効ヲ生スルヿ能ハス故ニ訴訟能力ノ欠ケタル者ヨリ訴ヘヲ提起スルヿアルカ又ハ法律上代理ノ資格ナキ者ヨリ訴ヘヲ提起スルヿアラハ被告ハ其欠缺ヲ補正スル迄ハ本條ノ答辯ヲ拒ムヿヲ得ルナリ

第五　訴訟費用保證欠缺ノ抗辯　外國人カ原告ト爲リ本邦人ヲ被

告ト爲シテ訴ヲ提起スルトキハ訴訟法第九十條ニ從テ保證ヲ立テサル可ラス若シ之ヲ立テサルニ於テハ其保證ヲ立ツル迄被告ハ本案ノ答辯ヲ拒ムヿヲ得ルナリ

第六　再訴ニ付キ前訴訟費用未濟ノ抗辯　第百九十八條ノ末項ノ場合ニ於テ前訴訟費用ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ原告カ再ヒ訴ヘヲ起スト雖モ被告ハ其費用ノ辨濟ヲ受クル迄本條ノ答辯ヲ拒ムヿヲ得ルナリ是レ他ナシ假令被告ノ地位ニ立ツト雖モ謂ハレナク原告ノ所爲ニ由テ損害ヲ被フルノ理ナキニ依ルナリ

第七　延期ノ抗辯　此ノ種ノ抗辯ハ以上ニ示シタル抗辯トハ稍〻其性質ヲ異ニスルモノナリ以上ノ抗辯ハ或ル條件ノ發生スルマテハ答辯ヲ爲サスト抗辯スルモノナルトモ第六ニ掲ケタル抗辯ハ猶豫ノ抗辯ナリ故ニ此ノ抗辯ヲ正當ナリト認メラルヽモ未タ訴ヘヲ免レタルモノニアラス只此ノ抗辯ニ依テ既ニ繫屬シタル訴訟ヲ延期スルノミ然ルニ他ノ抗辯ヲ正當ナリト認メラレタルトキハ其條件ノ發生スル迄ハ訴ヘヲ免レタルモノト爲ルナリ

此ノ抗辯ハ民法中往々散見スル所ナレトモ其重モナルモノヲ掲クレハ賣買物ニ對シテ訴ヘノ起リタル場合ニ於テハ其買主ハ擔保者タル賣主ヲシテ訴訟ニ參加セシムル爲メ延期ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルナリ又債權者ヨリ直チニ保證人ニ係リテ訴ヘヲ起シタルトキハ保證人ハ債權者ニ對シテ余ハ保證人ナリ先ツ債務者ノ財產ヲ檢索シテ若シ果シテ其義務ヲ盡クスニ足ラサルトキハ余代リテ之ヲ辨償セン其レ迄ハ答辯ノ延期ヲ爲サント言フカ如キ是レ延期ノ抗辯ナリトス

以上妨訴抗辯ノ場合ヲ說明セリ妨訴ハ既ニ述フルカ如ク本案ノ辯論前ニ爲サヽル可ラス然レトモ左ノ場合ニ於テハ已ムヲ得サル事情ア

ルヲ以テ本案ノ辯論後ト雖モ之ヲ許スナリ

第一　被告ノ有効ニ放棄スルヲ得サル妨訴ノ抗辯ニ屬スルトキ

我カ訴訟法ハ軟性質ヲ基礎トセシカ故ニ當事者ノ合意ニ因リテ變更ヲ爲シ得ルト雖モ其中ニハ被告ノ有効ニ放棄スルコトヲ得サルモノアリ假令被告カ之ヲ拋棄スト雖モ裁判所ハ職權ヲ以テ其調査ヲ爲スカ故ニ其拋棄ハ無効ニ屬スルニ至ル例ヘハ無訴權ノ抗辯ノ如キ專屬管轄ニ屬スル抗辯ノ如キ訴訟能力及ヒ法律上代理人欠缺ノ抗辯ノ如キハ公益ニ關係アルヲ以テ假令被告人カ之ヲ拋棄スト雖モ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査スルニヨリ其放棄ハ無効ニ屬スルナリ

第二　被告ノ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハサリシキ　此ノ場合ニ於テハ本案ノ辯論ニ取係リタリトモ妨訴ノ抗辯ヲ許スモノトス例ヘハ訴訟費用保證ヲ要セサル人ヨリ訴ヘヲ受ケタルモノナリト思惟シ辯論ヲ始メタルニ其辯論中原告ハ既ニ外國ニ歸化シタルヿヲ發見シタル場合ノ如キハ被告ノ過失ニアラサルヲ以テ辯論後モ妨訴抗辯ヲ許スモノトス

第二百七條　被告カ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムトキ又ハ裁判所カ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ別ニ辯論ヲ命スルトキハ其抗辯ニ付キ別ニ辯論ヲ爲シ及ヒ判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ス但裁判所ハ申立ニ因リ本案ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

【義解】（一八八）本條ハ妨訴抗辯ト本案ノ裁判トヲ分離シテ裁判シ得

ルヿナ定メタルモノナリ即チ被告カ妨訴ノ抗辯ヲ爲シ爲メニ本案ノ辯論ヲ拒ムキ又ハ當事者ノ申立ニヨリ妨訴抗辯ノ裁判ヲ受ケンヿヲ請求スルキ又ハ辯論錯雜ノ恐レアルヲ以テ判事カ先ツ妨訴抗辯ノ裁判ヲ爲サントスルトキハ妨訴抗辯ノ一點ニ付キテ辯論ヲ爲サシメ然シテ之ヲ判決ス可キモノトス若シ其妨訴抗辯ヲ不當ナリトシテ之ヲ棄却スルトキハ其判決ハ終局判決ト見做スニヨリ其判決ニ對シテ控訴上告スルヿヲ得ルナリ

妨訴抗辯ヲ理由アリトスルキハ本案ニ付キ辯論ヲ爲サス本案ヲ却下スルカ故ニ假令其訴ヲ提起シタル原告者ヨリ本案ノ辯論ヲ請求ストヽ雖モ之ヲ許ス可キモノニアラス何トナルニ此ノ場合ニ於テハ本訴ヲ裁判スルニアラスト雖モ本訴ヲ却下スルモノナルヲ以テ共ニ終局判決ト爲ルモノナレハナリ之レニ反シテ妨訴ノ抗辯理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ其抗辯ヲ棄却シ直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシムルモノナリトス然レトモ其妨訴抗辯棄却ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ如何スルカ之ヲ上訴シタルニモ係ハラス本案ノ辯論ヲ爲サシメ而シテ之ヲ判決ス可キモノナルヤ如何曰ク法律ハ只妨訴ニ關スル判決ハ終局判決ト見做ストノミアリテ何等ノ區別ヲ爲サス故ニ獨立シテ悉ク上訴ヲ爲スコトヲ得可キモノヽ如シ然レトモ此ノ間ニ自ラ法理上ノ區別ナカラサル可ラス或ハ上訴アリタルニヨリテ本案ノ辯論ヲ停止スル場合モ之レアル可ク或ハ獨立シテ上訴ヲ爲スモ其効ヲ見ルコト能ハサルノ場合モ之レアル可シ今法理ニ依テ其區別ヲ爲サンニ即チ左ノ如シ

第一　假定裁判

第二　本案外ノ中間裁判

第三　本案内ノ中間裁判

妨訴抗辯ニ關スル中間判決ハ以上ノ三種ナリ請フ之ヲ左ニ辯明シテ獨立シテ上訴ヲ爲スモ其効ヲ見ル場合ト否ラサル場合トノ區別ヲ示ス可シ

假定裁判トハ一時至急ノ事件ヲ決定スルモノヲ云フ例ヘハ夫婦離婚ノ訴ニ於テ其訴訟中夫ヨリ婦ニ養料ヲ給スヘシト言渡スカ如キ又家屋取戻ノ訴ニ於テ其訴訟中被告カ該家屋ヲ取潰スノ恐レアルトキハ原告ノ請求ニヨリ係爭家屋ヲ他人ニ附託セノコトヲ請求スルカ如キ是レ假定裁判ナリトス

本案外ノ中間判決トハ訴訟ノ本案ヲ豫メ裁判スルコトナク其取調中ニ補充ス可キ處分即チ確定裁判ノ準備ト爲ル可キ處分ヲ命スルヲ云フ例ヘハ證書類ノ報告、證據決定二箇ノ訴訟ヲ合併スル言渡ノ如キ是レナリ

本案内ノ中間判決トハ此ノ抗辯ヲ裁判スルニ依テ豫メ本案ノ是非曲直ヲ見ルヲ得ル裁判ヲ云フ例ヘハ寺院ノ總代カ寺院ノ山林ヲ賣却セントス然ルニ檀家ハ之ヲ不當トシテ彼等ハ總代ノ資格ナキヲ以テ元來寺院ノ財産ヲ處置スルノ權利ナシト抗辯セリ此ノ場合ニ於テ果シテ寺院總代ノ資格ヲ有スルヤ否ヤヲ判決セサル可ラス此ノ判決ハ直チニ本案ノ是非ヲ見ルニ至ルモノナリ又夫別離婚ノ訴ニ於テ婦ハ夫ノ打擲ヲ受ケタルヲ以テ離婚ヲ請求スト云フ此ノトキニ於テ夫カ果シテ婦ヲ打擲シタルヤ否ヤハ其離婚ノ原由ト爲ル可キヲ以テ之ヲ判決スルトキハ自ラ本案タル離婚ノ請求ヲ爲シ得ルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ルナリ

以上三種ノ中假定裁判及ヒ本案内ノ裁判ハ獨立シテ上訴ヲ爲スモ其

効ヲ見ル可キモノナルヲ以テ若シ其中間判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルトキハ假令當事者ノ申立アリト雖モ本案ノ辯論ヲ中止スルヲ可ナリトス然レトモ本案外ノ裁判ニ至テハ本案ニ影響ヲ爲サヽルヲ以テ直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシムルヲ可ナリトス故ニ法律ニハ其區別ヲ明記セスト雖モ法理上自ラ知リ得可キモノナルヲ以テ判事ハ宜シク其區別ヲ爲シテ或ハ本案ノ辯論ヲ中止シ或ハ本案ノ辯論ヲ爲サシム可キモノトス

第二百八條　裁判所ハ計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ニ於テハ口頭辯論ヲ延期シ準備手續ヲ命スルコトヲ得但妨訴ノ抗辯アリタルトキハ其完結後之ヲ爲ス

第二百九條　攻擊及ヒ防禦ノ方法(反訴、抗辯、再抗辯等)ハ第二百一條ニ規定スル制限ヲ以テ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ提出スルコトヲ得

〔義解〕(一八九)　第二百八條ハ事件審理ノ錯雜ヲ防キタルモノナリ即チ計算事件ノ如キ財産ヲ分割スル事件ノ如キ其他一々調書ニ作ルニアラスシテハ其額ヲ定ムルヿ能ハサル事件ニ關スルトキハ口頭辯論ヲ延期シテ準備手續ヲ命スルヿヲ得ルナリ此ノ準備手續ヲ命スル場合ハ何時モ本案ノ審理ナルヿト知ル可シ例ヘハ損害要償ノ訴ニ於テ被告ハ原告ニ對シテ損害ヲ賠償スルノ責任アルモノナリトノ判決ハ基本ニ關スルモノナルヲ以テ未タ計算迄ヲモ判決シタルモノニアラス假令此ノ判決ヲ受クルモ尚ホ其計算上ノ額ニ就テ爭ヒヲ生スルヿアル可シ或ハ其見積高ハ直接間接ヲ問ハス悉ク計算シタルモノナルヲ以

ヲ不當ナリト云ヒ或ハ直接ノミヲ見積リタルモノナルヲ以テ至當ナリト云フ場合ニ於テハ勢ヒ審理ノ目的ヲ達スルカ爲メニ其計算ニ關シテ準備手續ヲ爲サシメサル可ラス然シテ其計算ハ何時モ本案ノ審理ナリ若シ此等ノ事件ニシテ被告ヨリ妨訴ノ抗辨ヲ爲シタルトキハ其完結後之ヲ爲スヲ以テ順序ト爲ス

第二百九條ノ如キハ殆ント言フニ及ハサルノ事項ヲ記シタルモノナリ夫レ攻擊及ヒ防禦ノ方法ハ皆權利伸張ノ方法ナルヲ以テ何時ニテモ之ヲ提出スルヲ得ルヿ各自ノ權利ニシテ固ヨリ疑ヒヲ入レス即チ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルヿヲ得ルナリ然レトモ此ノ規定タル全ク無用ノ條文ニアラス凡ソ審理方法ニハ事實ノ陳述、證據調、事實上及ヒ法律上ノ辯論ノ順序アリ故ニ或ハ證據調ノ結果ニ依レル辯論ヲ初メタルトキハ最早ヤ事實ノ陳述ヲ爲スヿヲ得ス又ハ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出スルヿヲ得スト誤解スル者アルヤモ知ル可ラス故ニ此ノ誤解ナカラシメン爲メニ此ノ條ヲ設ケタルモノナリ

攻擊及ヒ防禦ノ方法ハ何時ニテモ提出スルヲ許スヲ以テ原則ト爲スモ第二百一條ニ規定スル制限ニ從ハサル可ラス此ノ制限ニ從ハサルトキハ相手方ノ申立ニ由リ其提出ヲ許サヽルモノトス

第二百十條　被告ヨリ時機ニ後レテ提出シタル防禦ノ方法ハ裁判所カ若シ之ヲ許スニ於テハ訴訟ヲ遲延ス可ク且被告ハ訴訟ヲ遲延セシメントスル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ早ク之ヲ提出セサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ申立ニ因リ之ヲ却下スルコトヲ得

〔義解〕(一九〇) 本條ハ第二百九條ト表裏ノ關係ヲ爲スモノナリ訴訟ニ要スル攻擊及ヒ防禦ノ方法ハ辯論修結ヲ告クル迄何時ニテモ提出スルヲ許スヲ以テ原則ト爲スモ若シ際限ナク之ヲ許スニ於テハ訴訟ノ進行ニ妨害ヲ來スノ恐レアリ故ニ本條ニ於テ其制限ヲ設ケタリ然リ而シテ本條ニ依リ其申立ヲ却下センニハ左ノ四條件ノ具備ヲ必要トス

第一　被告ヨリ時機ニ後レテ防禦ノ方法ヲ提出シタルヿ

第二　若シ其方法ノ提出ヲ許スニ於テハ訴訟ノ進行ヲ遲延スルヿ

第三　被告ハ訴訟ヲ遲延セシメントスルノ故意ヲ以テ又ハ甚タシキ怠慢ニヨリ早ク之ヲ提出セサルノ所爲アルヿ

第四　原告ヨリ却下ノ申立アリタルヿ

此ノ四條件ヲ具備スルニ於テハ防禦ノ方法ヲ却下スルヿヲ得ルモノナリ其原告ノ申立ヲ必要ト爲ス所以ノモノハ被告ニ於テ防禦ノ方法ヲ提出スルモ原告ニ於テ更ニ異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ承認セシモノト見做スニ依ルナリ

第二百十一條　訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル權利關係ノ成立又ハ不成立カ訴訟ノ裁判ノ全部又ハ一分ニ影響ヲ及ストキハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ原告ハ訴ノ申立ノ擴張ニ依リ又ハ被告ハ反訴ノ提起ニ依リ判決ヲ以テ其權利關係ヲ確定センコトヲ申立ツルコトヲ得

〔義解〕(一九一) 本條ハ訴訟ノ進行中ニ爭ヒト爲リタル權利關係ノ生シタル場合ニ於テ豫先ノ裁判ヲ受クンヿノ申立ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタルモノナリ本條ニ依テ權利關係ヲ確定センヿヲ申立テンニハ左

ノ條件ノ具備ヲ要ス

第一　訴訟ノ進行中ニ爭ヒトタル權利關係ノ生シタルコト

第二　其權利關係ノ成立不成立カ訴訟ノ裁判ノ全部又ハ一分ニ影響ヲ及スコト

此ノ二條件ヲ具備スルニ於テハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄原告ノ訴ノ申立ノ擴張ニヨリ被告ハ反訴ノ提起ニ因リ判決ヲ以テ其權利關係ヲ確定セシムコトヲ申立ツルコトヲ得ルナリ例ヘハ原告ヨリ公正證書ヲ以テ貸金催促ヲ訴ヘ出テタルニ被告ハ其公正證書ハ予ノ曾テ知ラサル間ニ成リタルモノナルヲ以テ眞實ノモノニアラス依テ原告提供ノ公正證書ハ眞實ノモノニアラストノ確認ヲ請求スト陳述セシトキハ即チ貸金催促ニ關スル訴訟ノ進行中一ノ爭ヒヲ生シタルモノナリ然シテ此ノ爭ヒタルヤ訴訟ノ裁判ノ全部ニ影響ヲ及スモノナルヲ以テ先ツ被告ハ判決ヲ以テ其權利關係即チ眞實ノモノナルヤ否ヤヲ確定セシムコトヲ申立ツルコトヲ得ルナリ又例ヘハ原告ヨリ五百圓ノ貸金ヲ訴ヘタルニ被告ハ反訴ヲ起シテ曾テ原告ニ預ケ置キタル金圓ト相殺セシムコトヲ要求シ原告ハ其預金ヲ認メサルトキハ茲ニ一ノ爭ヒヲ生シタルモノナリ即チ果シテ預金アリタルヤ否ヤノ權利關係ヲ生シタルモノナリ然シテ本案ニ影響ヲ及スモノナルヲ以テ先ツ之ヲ確定セシムコトヲ申立ツルコトヲ得ルナリ

第二百十二條　訴狀其他ノ準備書面ニ於テ主張セサル請求ノ權利拘束ハ口頭辯論ニ於テ其請求ヲ主張シタル時ヲ以テ始マル

第二百十三條　各當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁セシムル爲メニ用ヒントスル證據方法ヲ開

示シ且相手方ヨリ開示シタル證據方法ニ付キ陳述ス可シ

各箇ノ證據方法ニ付テノ證據申出及ヒ之ニ關スル陳述ハ第六節乃至第十節ノ規定ニ從フ

〔義解〕(一九二)第二百十二條ハ第百九十五條ト相俟ツモノナリ第百九十五條ニ於テハ權利拘束ノ効ハ訴狀ノ送達ニ依テ生スト云ヒ第二百十二條ニ於テハ訴狀其他ノ準備書面ニ於テ主張セサル請求ノ權利拘束ハ口頭辯論ノ時其請求ヲ主張シタルトキニ於テ効ヲ生スト云ヘリ去レハ權利拘束ノ効ハ何時ニテモ新ナル請求ヲ爲シタルトキニ於テ發生スルモノト知ル可キナリ

第二百十三條以下ハ證據ノ提出方法ヲ定メタルモノナリ此ノ證據方法ト證據トハ決シテ混同ス可ラス證據トハ權利義務發生ノ事實ヲ證スルモノヲ云フ即チ臨檢鑑定、私書、口頭自白、公正證書、證人ノ陳述等是レナリ證據方法トハ實躰證據ノ利用ヲ云フ即チ之ヲ判事ノ面前ニ提出シテ事實ノ主張ヲ證明スルモノ是レナリ證據ノ効力ハ權利義務ノ基本ニ關スルヲ以テ之ヲ訴訟法ニ規定スルコトナシ例ヘハ公正證書ハ如何ナル効力アルヤ私書證書ト其効力上ノ差異幾何ナルヤ又追認ノ効力、自白ノ効力如何等ノ問題ハ權利義務ノ基本ニ關スルヲ以テ民法ニ規定ス可キモノナリ訴訟法ニ記スル所ノモノハ所謂證據ノ利用方法ヲ記スルモノニシテ効力ノ發生有無ヲ記スルモノニアラサルナリ

當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ相手方ノ提出シタル證據ヲ辯駁センカ爲メニ用ヒントスル證據方法ヲ開示シ且ツ相手方ノ提出シタル證據ニ向テ陳述ヲ爲スノ責アリ然レモ是レハ法律上ヨリ義務ヲ負

擔セシメタルモノニアラサルカ故ニ事實上ノ主張ヲ證明セサルコトヲモ得可ク又相手方ノ提出シタル證據ニ向テ辯駁ヲ爲サヽルコトヲモ得可シ只事實上ノ主張ヲ爲サス相手方ノ主張シタル事實ニ向テ明カニ爭ハサルトキハ不利益ノ結果ヲ受クルノミナリ

第二百十四條 證據方法及ヒ證據抗辯ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ主張スルコトヲ得

證據方法及ヒ證據抗辯ノ時機ニ後レタル提出ニ付テハ第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 證據調並ニ證據決定ヲ以テスル特別ノ證據調手續ノ命令ハ第五節乃至第十節ノ規定ニ從フ

第二百十六條 當事者ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲ス可シ

受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲シタルトキハ當事者ハ證據調ニ關スル審問調書ニ基キ其結果ヲ演述ス可シ

〔義解〕(一九三) 證據利用ノ方法及ヒ相手方ノ提出シタル證據抗辯ノ如キハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ主張スルヿヲ得ルモノナリ然レトモ若シ其方法ニシテ時機ニ後レタルトキモ尙ホ之ヲ許スカト云フニ際限ナク之ヲ許容スルニ於テハ訴訟ノ完結ヲ妨害スルノ恐レアルヲ以テ法律ハ茲ニ一ノ制限ヲ設ケ故意ニ訴訟ヲ遲延セシムルノ目的ヲ以テ其時機ニ後レタルカ又ハ甚タシキ怠慢ニ因リテ其時機ニ後レタルトキハ一方ノ申立ニ因リ證據方法及ヒ證據抗辯ヲ却下

スルヿヲ得ルナリ

證據ノ提出方法ニ付テハ屢〻決定ヲ要スル場合之レアル可シ例ヘハ證人ヲ呼出スガ如キ又相手方若クハ第三者ノ所持スル物件ヲ證據トシテ提出セシメントスル申請ノ如キハ凡ヘテ裁判所ノ命令ニ依リテ執行ヲ爲スモノナレハ則チ訴訟人ヨリ之ヲ請求スルモ必スシモ之ヲ許サヽルヲ得スト云フモノニアラス判事ノ合議ニ依リテハ之ヲ許サヽルヿヲ得ルナリ即チ證人若クハ證書ノ提出ヲ命セサルモ判然本件ノ是非ヲ判決シ得ルノ程度ニ熟スルトキハ假令訴訟人ヨリ之ヲ請求スルモ其申請ヲ却下スルコトヲ得ルナリ此等ノ決定ヲ稱シテ證據決定ト云フ證據決定ニ關スル特別ノ手續ハ尚ホ後ニ至リテ之ヲ詳述ス可シ

我カ訴訟法ハ斷然私法ノ部ニ屬セシムルノ精神ヲ以テ不干涉主義ヲ取レリ故ニ證據調ノ結果ニ付キテ之ヲ辯論スルト否ヤトハ訴訟人ノ隨意ニ任シ法律ハ必スシモ之ヲ辯論セヨト言フモノニアラサルナリ

第二百十六條ノ第一項ニ依ルトキハ當事者ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲ス可シト記セシヲ以テ當事者ハ必スヤ訴訟ノ關係ヲ表明セサル可ラス證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲サヽル可ラサルカ如クナレトモ其精神ハ決シテ左ニアラス只判事ヲシテ訴訟ノ關係ヲ知ラシメス判事ヲシテ訴訟ノ關係ヨリ生スル心證ヲ起サシメサルトキハ不利益ノ結果ヲ受クルノミ

此ノ證據調ノ結果ニ付キテ辯論ヲ爲スヿハ當事者ニ取リテハ自由ナレトモ判事ニ取リテハ自由ナリト言フ可ラス之ヲ換言セハ此ノ辯論ヲ爲サシムルモ然ラサルモ判事ノ自由ナリト言フニ在ラス判事ハ訴訟取調ノ順序ニ於ケル職務トシテ其辯論ヲ爲シ得ル旨ヲ當事者ニ告ケ

サル可ラス若シ證據調ヲ爲スヤ辯論ヲ爲サシメス直チニ終結ヲ告タヲ閉延シタルトキハ違法ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルナリ

第二百十七條　裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反セサル限リハ辯論ノ全旨趣及ヒ或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ眞實ナリト認ム可キヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シ

〔義解〕(一九四) 本條ハ民刑證據採捨ノ區別ヲ記シタルモノナリ夫レ刑事ニ於テハ證據ノ取捨ハ一ニ裁判官ノ心證ニ任シ證據ニ因リ裁判官ヲ拘束セサルヲ原則ト爲ス然レヒ民事ニ在テハ恐ク然リト言フヲ得ス民事ニ於テハ民法中ニ證據法ナルモノヲ設ケタルヲ以テ判事モ亦證據ノ取捨ヲ爲スニ當テ此ノ證據法ノ規定ニ從ハサル可ラス去レハ刑事ニ在テハ證據ニヨリ判事ヲ拘束セサルヲ以テ原則ト爲シ民事ニ在テハ證據ニ因リ判事ヲ拘束スルヲ以テ原則トス今民法證據編ニ付キ判事ヲ拘束スル場合ノ一二ヲ擧ケンニ證據編第十四條ニ私署證書ニシテ之ヲ以テ對抗セラル可キ者ニ不利ナル事實ノ陳述又ハ追認ヲ記載シ且ツ其署名及ヒ印章又ハ其一アルトキハ署名者捺印者ノ裁判外ノ自白即チ證言ヲ爲スモノナリトアリ故ニ判事ハ證言ヲ爲スモノニアラスト判決スルヲ得ス同第二十五條ニ方式ニ從ヒ調整シタル私署證書ニシテ其對抗ヲ受クル者カ追認シ又ハ裁判上ニテ其者カ追認シタリト爲シタルモノハ其主文及ヒ之レト直接ノ關係ヲ有シ且ツ之ヲ補完スル文言ニ付テハ其者ニ對シテ完全ナル證據トストアリ故ニ判事ハ追認シタルニモ係ハラス完全ナル證據ニアラスト言フコトヲ得ス此ノ類ノ條條民法中累々トシテ之レアリ今一々之ヲ擧示スル

ニ及ハス要スルニ民法ハ權利義務ノ基本ヲ定メタルモノナルヲ以テ其基本上ノ規定ニ向テハ判事ノ心證ニ任スルモノニアラサルカ故ニ必スヤ之レニ從ハサル可ラサルモノトス

又訴訟法ニ付キテ判事ヲ拘束スル場合ノ一二ヲ示サンニ口頭辯論ノ際被告カ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ被告敗訴ノ言渡ヲ爲サヽル可ラス是レ本法第二百二十九條ノ規定ナリ然ルニ判事ハ自由ナル心證ヲ以テ判斷シ得ルモノナリトシテ原告敗訴ノ言渡ヲ爲サハ如何是レ決シテ判事ノ爲シ得可キモノニアラス又第百十一條第二項ニ明カニ爭ハサル事實ハ原告若クハ被告ノ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意志カ顯ハレサルトキハ自白シタルモノト見做ストアリ然ルニ此ノ場合ニ到着スルニモ係ハラス判事ハ自白シタルモノト見做サスト言フコトヲ得サルナリ證據上ノ取捨ニ關シ曲直ヲ判斷スル場合ニ當テ判事ヲ拘束スルノ場合訴訟法ニモ所々ニ之レアリト雖モ今一々之ヲ擧示スルニ遑アラス之ヲ要スルニ民法及ヒ訴訟法ニ規定シアルモノニ向テハ判事ハ常ニ拘束セラル可キモノニシテ自由ナル心證ヲ以テ該規定ニ反スルノ判決ヲ爲スヿヲ得サルナリ

然ラハ則チ第二百十七條ニ記スル自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シト言ヘルハ如何ナル區域ニ止ル可キモノナルヤ曰ク民法訴訟法ニ反セサルノ範圍ニ於テ心證ニ依リ判決スルヿヲ得ルナリ然シテ判事ノ心證ハ如何ナル材料ニ依テ形作ルヿヲ得ルカト云フニ辯論ノ全旨趣及ヒ證據調等ハ其材料ト爲ルモノナリ判事カ此等ノ材料ニ依テ心證ヲ取リ以テ判決スルトキハ其事實理由ヲ判文ニ明記セサル可ラス之ヲ換言セハ事實認定ノ理由ヲ明記スルヿヲ要ス若シ然ラスシテ其事實ヲ認定シタルノ理由ヲ掲ケサルトキハ所謂判決ニ理由ヲ附セサルモノナ

ルヲ以テ上告ノ原由ト爲ルナリ

第二百十八條　裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

〔義解〕《一九五》裁判所ニ於テ顯著ナル事實トハ別ニ證明セサルモ裁判所及ヒ世人一般カ知リ得可キ事實ヲ云フ例ヘハ新聞紙又ハ官報等ニ於テ知リ得タル事實ノ如キ是レナリ故ニ判事一人ニ於テ之ヲ知ルモ一般ニ知リ得可キ性質ニアラサルモノナルトキハ顯著ナル事實ナリト言フヿヲ得サルヲ以テ之ヲ證明セサル可ラス之ノ規定タル實ニ法理ヲ得タルモノナリ其レ顯著ナル事實ナルニモ係ハラス其證據ヲ提出セサルノ故ヲ以テ之ヲ採用スルヲ得ストスルトキハ只ニ申立者ノ不利益ナルノミナラス不理ノ甚タシキニ至ルモノナリ例ヘハ洪水ノ爲メニ不變期限ヲ經過シタルトキ其原狀回復ヲ爲サントスルニ當リ其洪水ニ遮ラレタルコトヲ證明セサル可ラストセハ屢無益ナル手數ヲ煩ハスニ至ラン其洪水ノ之レアリタルコトハ公報又ハ新聞紙等ニ於テ一般ニ熟知シ得ル所ノモノナリ然ルニ尙ホ之ヲ證明セヨト言フハ無益ノ手數ヲ爲セヨト云フニ異ナラサルナリ其他假令相手方ハ偶之ヲ知ラサルニモセヨ其事實タル一般ニ顯著ナルモノニ係ルトキハ之ヲ證明スルニ及ハサルナリ

第二百十九條　地方慣習法商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ハ之ヲ證ス可シ裁判所ハ當事者カ其證明ヲ爲ストヿニ拘ハラス職權ヲ以テ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕《一九六》抑裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルニ及ハストノ事ハ既ニ前條ニ於テ之ヲ見タリ是レ畢竟之ヲ證明セサルモ其事

實ノ性質タル一般ニ知リ得可キニ依ルナリ然レモ一般ニ知リ得可ラサルノ事實ニシテ之ニ依テ判決ノ基本ト爲ル可キモノニ係ルトキハ其之ヲ主張シテ利益ヲ受クル者ニ於テ證明スルノ責任アリ若シ之ヲ證明セサルトキハ其者ノ不利益ニ歸スルヿ必然ナリトス即チ本條ニ於テハ稍〻知リ難キ事實ハ其之ヲ引用スル者ニ於テ證明セヨト云フナリ本條ニ所謂地方慣習ノ如キ商慣習ノ如キ又ハ規約ノ如キ外國法律ノ如キハ一般ニ知リ得可ラサルモノタリ故ニ之ヲ援用シテ以テ利益ヲ得ソトスル者ハ之ヲ證明セサル可ラス

習慣ニハ二種アリ曰ク一般ノ習慣曰ク地方習慣是レナリ一般ノ習慣トハ日本國中ニ行ハルヽ所ノ習慣ニシテ何人モ知リ得可キモノヲ云フ故ニ此ノ習慣ニ係ルトキハ顯著ナル事實ナリトシテ別ニ證明スルヲ要セス例ヘハ長子相續ノ如キ隱居相續ノ如キハ日本國中一般ニ行ハルヽノ習慣ナリ法律ト同一ノ効力アルモノナリ故ニ此ノ事ニ付キ爭ヒアル場合ニ於テハ只口頭ヲ以テ辯論シ之ヲ證明スルヲ要セサルモノトス然レモ地方習慣ニ至テハ各地方ニ依リテ其習慣ヲ異ニスルニヨリ之ヲ證明スルヿヲ要トス其一般ノ習慣ナルト地方習慣ナルトヲ問ハス習慣トシテ判決ノ基本ト爲サンニハ左ノ性質ノ具備シタルモノナルヿヲ要ス

第一　一樣ナラサル可ラス　蓋シ習慣ヲ證セントスル事實或ハ其行爲ニシテ一樣ナラサレハ即チ事實或ハ所爲自躰ニ於テ互ニ相撞着シ之ヲ證セントスルモ遂ニ得可ラス

第二　公ケナラサル可ラス　其レ習慣ハ一般人民ノ之ヲ熟知シテ其之レニ反對スルモノナキニ至テ始メテ暗ニ之ヲ承認スルモノナリト考察スルヲ得ルナリ然ルニ公ケノ性質ヲ有スルニアラ

スンハ之ヲ知ルヿ能ハス

第三　習慣ハ一國ニ普通ナルモノト一地方ニ限ルモノトニ依リ一國人民或ハ一地方人民普通ニ實行セラレサル可ラス　若シ其レ特別習慣即チ商人ノ如キ人民中ノ一等級ニノミ適用セラル可キ習慣ニ關シテハ則チ其等級ニ屬スル人民一般ニノミ實行セラルヽヲ以テ足レリトス

第四　永久年月ノ間反覆實行セラレサル可ラス　人民一般ニ之ヲ承認スル確實ノ成績アリ毫モ之ヲ疑フ可ラサル爲メ此ノ條件ヲ必要ト爲スナリ

第五　立法者ノ常ニ宥恕スル所タラサル可ラス　其故如何ト云フニ他ノ明カニ之ヲ禁止スル法律ニ反對シテ習慣ハ其勢力ヲ張ル可ラサレハナリ其レ立法者ハ法律ヲ制定スル爲メ一國ノ民ヲ代表スルモノナリ果シテ然ラハ此ノ代表者ニシテ明カニ習慣ト反對ノ意志ヲ吐露セハ人民ニシテ此ノ習慣ヲ默認スルモノト考察スルハ道理上爲スヿ能ハサルナリ蓋シ此ノ原則ハ又既ニ羅馬法ノ是認スル所ト爲レリ故ニ羅馬法ニ曰ク古來ノ習慣ハ實ニ重要ニシテ之ヲ遵守セサル可ラス然レトモ如何ニ重要ナルモ習慣ハ道理ヲ壓倒スルヲ得スト學者中ニ之ヲ解シテ習慣ハ法律ノ精神ヲ壓倒スルヲ得スト言フ者アリ是レ亦一說ナリトス

習慣トシテ判決ノ基本ト爲シ得ルモノハ必ス以上ノ性質ヲ具備セサル可ラサルカ今習慣ヲ證セントスルニハ如何ナル方法ニ依テ之ヲ爲シ得ルカ曰ク左ノ三個ノ方法ニ依テ之ヲ證スルヿヲ得ルナリ

第一　證人ニ依テ證スルヿヲ得ルナリ然レトモ習慣トシテ充分ノ効力アルヤ否ヤノ點ニ至リテハ是レ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ其

取捨ハ一ニ裁判官ノ權内ニ在ルナリ

第二　現ニ證セント欲スル所ノ習慣ヲ是認シタル文書ヲ多ク提出シテ之ヲ證スルヿヲ得ルナリ故ニ判決書ヲ提出シ或ハ行政官ヨリ公布シタル文書ヲ提出シテ之ヲ爲スヿヲ得ルナリ然シテ行政官ヨリ發シタル文書ヲ提出スルハ特ニ山林等ニ關スル習慣ヲ證スルニ於テ最モ多ク適用セラルヽモノナリ

第三　習慣ニ法律ノ効力ヲ與フルヲ得ル當該官ノ爲シタル習慣ノ記載ヲ以テ之ヲ證スルヲ得又尋常一個人ノ爲シタル記錄ト雖モ世上一般ニ之ヲ承認シタルトキハ其記錄モ亦習慣ヲ證スルヿヲ得ルナリ

民法上ノ習慣タルト商法上ノ習慣タルトヲ問ハス其性質及ヒ之ヲ證スルノ方法ニ至テハ同一ナリ故ニ商習慣ニ付キテハ別ニ之ヲ説明セ

ス然レ𪜈茲ニ三個ノ問題アリ即チ左ノ如シ

第一　習慣ト法律ト相反シタルトキハ如何ナル結果ヲ呈スルヤ

第二　商習慣ト民法ト牴觸シタルトキハ何レヲ適用ス可キヤ

第三　習慣ニ背キタルノ故ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ルヤ

此ノ三個ノ問題ニ付キ簡短ニ答辯ヲ附セン

第一問題　既ニ習慣ノ性質ニ於テ述ヘタルカ如ク習慣ト法律ト牴觸シタルトキハ固ヨリ法律ヲ有効ト爲シテ習慣ハ自ラ消滅シタルモノト爲サヽル可ラス然レ𪜈茲ニ一ノ區別ス可キモノアリ習慣カ命令法又ハ禁止法ニ背キタルトキハ固ヨリ習慣ハ消滅シタルモノト爲サヽル可ラス例ヘハ是レ迄ハ金利ノ如キハ人民各自ノ定ムル所ニ放委シ甚タ高キ利子ヲ附スルコトヲ得タルモ自今二割ノ利子ニアラスンハ無効ナリトノ法律出テタルトキハ人民各自ノ自由ニ任セシ習慣ハ消滅シ

タルモノト爲サヽル可ラス然レトモ聽任法ニ至テハ假令聽任法ニ相反スルノ習慣タルモ素ト其習慣ヲ利用スルト否ヤトハ各自ノ隨意ニ放任スルヲ以テ決シテ其習慣ハ消滅ニ歸シタルモノト言フヲ得サルナリ

第二問題 商事ニ在テ第一ニ判決ノ標準ト爲ルモノハ商法ナリ商法ニ正條ナキ事項ニ遇フトキハ先ツ商習慣アルヤ否ヤヲ探ラサル可ラス商習慣ニモナキ事項ニ遭遇スルトキハ民法ノ正條ヲ推理ニ依テ適用ス可キモノトス去レハ商事ニシテ民法ト商習慣ト抵觸シタルトキハ商習慣ヲ以テ有効ト爲スヲ順序ナリトス

第三問題 習慣モ一ノ法ナリト言フノ說ヨリ言フトキハ習慣ニ背キタルトキハ上告ノ原由ト爲シ得ル如クナレトモ今日ノ學說ニ於テハ習慣ヲ目シテ法ナリト言フヲ得ス之ヲ換言セハ如何ニ永久不變ノ習慣ニモセヨ習慣ハ一ノ事實ニシテ法律ニアラサルナリ故ニ習慣ニ背キタリト雖モ上告ノ原由ト爲スヲ得ス然レトモ其習慣ヲ認メナカラ之ヲ適用セサルトキハ所謂判決理由ハ齟齬ナルヲ以テ此ノ點ニヨリ上告スルヲ得ルナリ

以上習慣ノ事ヲ說キ終レリ習慣ニ次キテ證明ヲ要スルモノハ規約及ヒ外國ノ現行法ナリ規約トハ組合會社ノ規約ノ如キ宗徒ニ於ケル宗制ノ如キヲ云フ此等ハ其組合員等ハ之ヲ知ルモ餘人ハ之ヲ知ラサルヲ以テ之ヲ證明セサル可ラス又我カ國ノ現行法ハ判事之ヲ知ルヲ以テ之ヲ證明スルニ及ハサルモ外國ノ現行法ノ如キハ通常之ヲ知ラサルモノナルヲ以テ證明セサル可ラサルナリ

以上ノ事項ハ當事者ニ於テ之ヲ證明スルヲ通例ト爲スモ若シ當事者ニ於テ之ヲ證明セス然シテ其取調ヲ必要ト爲ストキハ裁判所ハ職權ヲ

以テ之レカ取調ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百二十條　此法律ノ規定ニ依リ事實上ノ主張ヲ疏明ス可キトキハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシム可キ證據方法ヲ申出ツルヲ以テ足ル但即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疏明ノ方法トシテ之ヲ許サス

〔義解〕〔一九七〕本條ノ疏明トハ申立ヲタル事項ニ對シ判事ヲシテ眞實ナリト認メシム可キ方法ヲ云フ本法ニ於テ申立ノ事項ヲ疏明ス可シト規定セシモノ決シテ少シトセス今其重モナル箇條ヲ擧ケンニ即チ左ノ如シ

第一　判事ヲ忌避スル場合ニ於テ忌避ノ原因ヲ疏明セサル可ラス（第三十五條）

第二　他人ノ訴訟ニ參加スル場合ニ於テ其參加ノ理由ヲ疏明セサル可ラス（第五十七條）

第三　口頭辯論期日變更ノ場合ニ於テ其理由ヲ疏明セサル可ラス（第百五十七條）

第四　原狀回復ノ場合ニ於テ其回復ス可キ原由ヲ疏明セサル可ラス（第百七十六條）

第五　妨訴抗辯ノ場合ニ於テ被告ノ口頭辯論ヲ爲シタル後尚ホ妨訴抗辯ヲ爲サントスルトキハ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スルヿ能ハサルノ理由ヲ疏明セサル可ラス（第二百六條）

第六　第三者カ訴訟記錄ヲ閲覽セントスルトキハ權利上ノ利害ヲ疏明セサル可ラス（第二百二十四條）

第七　證書ヲ拒ム證人ハ其拒絶ノ原因ヲ疏明セサル可ラス（第三百

條)

第八　證書ノ提出ヲ請求スル場合ニ於テ其證書第三者ノ手ニ存スルトキハ其旨ヲ疏明セサル可ラス(第三百四十四條)

第九　證據保全ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ證據ヲ紛失スルノ恐レアリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐レアル理由ヲ疏明セサル可ラス(第三百六十七條)

第十　控訴審ニ至リ妨訴抗辯ヲ爲ストキハ過失ニアラスシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルヿヲ疏明セサル可ラス(第四百十四條)

此ノ他疏明ヲ命スルノ場合數多之レアリト雖モ之ヲ悉ク擧クルニ遑アラス要スルニ疏明ヲ爲ス可シト命スルノ場合ハ訴訟ノ關係ヲ明確ニセヨト言フニアラサルカ故ニ常ニ一方ノ申立ニ關スルモノニシテ相手方ノ陳述ヲ聞ク可キモノニアラス只一方ノ申立ニ依リ裁判官ヲシテ其申立ヲ眞實ナリト認メシム可キ方法ニテ足レリトス故ニ必スシモ證據ヲ提出シテ疏明スルヲ要セス判事ヲシテ眞實ナリトノ感覺ヲ起サシムルヲ以テ可ナリトス又判事モ證據ニ依ラサルモ其申立ヲ眞實ナリト認定シ得ルニ於テハ之ヲ許スヿヲ得ルナリ

然レトモ只其申立ノミニシテ信ヲ措クニ足ラサルトキハ他ニ證據調ヲ爲サヽル可ラス其證據調ニシテ即時ニ爲シ得可キトキハ疏明方法トシテ之ヲ許スモ即時ニ證據調ヲ爲スヲ得サルトキハ疏明方法トシテ之ヲ申立ツルヿヲ許サヽルモノトス

第二百二十一條　裁判所ハ事件ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス自ラ又ハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ訴訟又ハ或ル爭點ノ和解ヲ試ムル權アリ和解ヲ試ムル爲ニハ當事者ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

〔義解〕（一九八）本條ハ既ニ權利拘束ト爲リタル後ニ於テモ和解ヲ試ムルノ權アル所以ヲ示シタルモノナリ元來訴訟ハ理論ノ戰爭ナルヲ以テ嘉ミス可キノ行爲ニアラス一タヒ判決ヲ受ケテ是非曲直ノ相別ルヽヤ當事者ノ間ハ恰モ敵讐ノ如キ思ヒナキ能ハス去レハ其未タ判決ヲ爲サヽル前ニ當テ和解ノ整フトキハ交誼上宜シキヲ得ルニ至ルモノナリ殊ニ人事ノ訴訟ニ於テハ和解ノ整フコトヲ希望スルモノナリ其レ親子兄弟夫妻ノ間ニ於テ訴訟ヲ爲シ互ニ其非ヲ摘發シテ法廷ニ勝敗ヲ爭ヒ終ニ其勝敗ヲ決スルヿアルトキハ親族タルノ情誼破レテ一家ノ平和ヲ害スルニ至ラン是レ法律カ和解ニ至ルヿヲ希望シタル所以ナリ明治廿三年法律第百四號第九條ニ離婚ノ訴訟ニシテ和解ノ調フ可キ見込アルトキハ一箇年間其手續ヲ中止スルヿヲ得トアルモ此ノ故ナリ

民事訴訟法施行前ニ在テハ我カ法廷ノ組織ハ佛國訴訟法ニ模倣セシヲ以テ勸解廷ナルモノアリタリキ勸解ナルモノハ一タヒ和解ヲ試ミルモ當事者雙方執拗シテ一歩ヲ讓ラサルトキ茲ニ勸解不調ト爲リ其レヨリ更メテ民事裁判所ヘ訴ヘ出ツルモノナリ訴訟法ニ於テハ此ノ制度ヲ廢シ代フルニ支拂命令督促手續及ヒ如何ナル場合ニ於テモ和解ヲ試ミルヿヲ以テセリ勸解制度ノ存セシトキニ在テハ最初ニ和解ヲ試ミテ不調ト爲リシモノナレハ則チ民事法廷ニ於テハ當事者互ニ和解ヲ爲スハ格別裁判官ヨリ更ニ和解ヲ試ムルヿナキカ故ニ民事法廷ニ出テタル事件ハ重モニ判決ヲ受クルニ至リタルモノナリ故ニ特ニ本條ヲ設ケテ判事モ亦和解ヲ試ムルノ權アル所以ヲ示セリ此ノ勸解制度ヲ廢シタル事ニ付キテハ其利害ノ議論大ニ之レアル可キモ要スルニ勸解制度ノ存セシトキハ事件延滯シテ公益私益ヲ害スルヿ少カラ

サリシ畢竟支拂命令督促手續等ヲ設ケテ勸解ヲ廢シタルモノハ事件ノ延滯ヲ防キタルニ歸着スルモノナル可シ

和解ヲ試ミソニハ訴訟代理人ニ對シテ之ヲ爲サンヨリ寧ロ本人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ其効著シト爲ス殊ニ訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニアラスンハ和解ヲ爲スノ權ナキヲ以テ假令判事ヨリ和解ヲ爲セヨト命セラルヽモ之レニ應スルヿヲ得サルナリ茲ニ於テカ和解ヲ試ムルトキニ至ラハ本人ヲ呼出スノ必要ヲ生スルナリ然リ而シテ和解ハ全部ニ亘リテ之ヲ爲スト又一部分ニ對シテ之ヲ爲ストヲ問ハス其和解ヲ爲シ得ル點ニ向テ之ヲ試ミ愈其目的ヲ達シタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルモノトス假令裁判官カ本人ヲ呼出スト雖モ之レカ爲メニ代理人ノ委任ノ消滅シタルモノニアラス本人ト共ニ出頭シテ其議ニ參與スルヿヲ得ルナリ

第二百二十二條　判決ヲ受ク可キ事項ノ申立ハ書面ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

書面ニ掲ケサル申立アルトキハ調書ニ附錄トシテ添附ス可キ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

重要ノ點ニ於テ以前申立テタルモノト異ナル申立ニ付テモ亦同シ

本條ノ規定ヲ遵守セサルトキハ申立ナキモノト見做ス

〔義解〕（一九九）判決ヲ受ク可キ事項ノ申立トハ目的物ノ明示ヲ云フ即チ權利上其得ソトスル所ノ目的ヲ云フナリ此ノ目的ハ訴訟ノ判決事項ニ關スルヲ以テ口頭ニテ之ヲ陳述スルヿヲ許サス必スヤ書面ヲ以テ之ヲ申立ツルヿヲ要ス然シテ其判決ヲ受ク可キノ事項ハ本案ノ

判決事項ナルト中間ノ判決事項ナルトヲ問ハス苟クモ判決ヲ受ケントスル事項ニ向テハ之ヲ書面ニ基キ提出スルヿヲ要ス斯ク必スシモ書面ヲ以テ提供セヨト命スル所以ノモノハ判決事項ハ理由ト異ニシテ正確ナルヿヲ要スルモノナンハナリ

準備書面中ニ掲載セサル申立ニ付テモ判決ヲ受ク可キ事項ニ係ルトキハ亦口頭ノミヲ以テ演述スルヿヲ許サス書面ニ基キテ之ヲ提出スルヿヲ要スルモノナリ例ヘハ私署證書ヲ以テ貸金催促ヲ訴ヘタルニ被告ニ於テ之ヲ認メス依テ原告ハ此ノ證書ノ眞否ヲ確定センヿノ申立ヲ爲シタリ然ルトキハ先ツ此ノ證書ハ眞正ニ成立シタルモノナルヤ否ヤヲ中間判決ニ依テ裁判ス可キモノナリ此ノ場合ニ於テハ準備書面ニ掲ケサリシ事項ナルニ由リ調書ニ附錄トシテ添附ス可キ爲メ更ニ其中間判決ヲ求ムル事項ヲ書面ニ作リテ差出ス可キモノトス

只ニ判決ヲ受クル事項ノミナラス重要ノ點ニ付キ以前申立テタル所ト異ナル申立ニ關スルトキハ亦書面ニ基キテ申立ツルヿヲ要ス例ヘハ一定ノ申立ヲ或ハ擴張シ或ハ減縮スルカ如キ場合ヲ云フナリ本條ノ各項ハ隨意法ニアラスシテ必ス書面ニ基キテ其申立ヲ爲セヨト云フニ在ルモノナレハ則チ若シ此ノ規則ニ背キテ書面ヲ提出セサルトキハ其申立ノ効ナキモノト爲ルナリ尤モ本條ノ規定ハ彼ノ例外法ニ屬スル區裁判所ノ訴訟手續ニハ適用スルヿヲ得サルナリ

第二百二十三條　前條ノ申立ヲ除ク外書面ニ掲ケサル重要ナル陳述又ハ其書面ノ旨趣ト重要ノ點ニ於テ差異ノ存スル事項ハ其差異カ附加刪除其他ノ變更ニ係ルヲ問ハス申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ調書若クハ其附錄トシテ添附ス可キ爲メ差出シタル書

面ニ依リテ之ヲ明確ニス可シ

〔義解〕(二〇〇) 本條ハ判決ヲ受ク可キ事項外ニ係ル重要ノ事項ヲ記シタルモノナリ即チ一定ノ申立外ナル理由ニシテ若シ此ノ理由ノ旨趣ヲ誤ルトキハ判決事項ニ影響ヲ及ス程ノ重要ナル事項ヲ云フナリ例ヘハ證據ノ認否及ヒ義務消滅ノ原由ニ關スル辯論ノ如キ是レナリ此等重要ノ陳述ニシテ準備書面ニ掲ケタルモノト異ナルトキハ之ヲ明確ニスル爲メ當事者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ調書ニ作リ又ハ書面ニ基キ提出セヨト命スルコトヲ得ルナリ然レトモ本條ハ前條トハ異ナリテ其明確ニスルヿヲ必要ト認メタルトキハ之ヲ爲スヿヲ得可ク之ヲ必要ナリト認メサルトキハ明確ニスルヿ及ハス然シテ之ヲ明確ニセサルモ之レカ爲メニ陳述ナカリシモノト見做ス可キニアラサルナリ

第二百二十四條　當事者ハ訴訟記錄ヲ閲覽シ且裁判所書記ヲシテ其正本抄本及ヒ謄本ヲ付與セシムルコトヲ得

裁判長ハ第三者カ權利上ノ利害ヲ疏明スルトキニ限リ當事者ノ承諾ナクシテ訴訟記錄ノ閲覽及ヒ其抄本並ニ謄本ノ付與ヲ許スコトヲ得

判決、決定、命令ノ草案及ヒ其準備ニ供シタル書類並ニ評議又ハ處罰ニ關スル書類ハ其原本ナルト謄本ナルトヲ問ハス之ヲ閲覽スルコトヲ許サス

〔義解〕(二〇一) 本條ハ訴訟記錄ノ閲覽ニ關スル事項ヲ規定シタルモノナリ訴訟關係人ハ訴訟記錄ヲ閲覽シ及ヒ其謄本等ヲ請求スルノ權利アルモ訴訟關係人ニアラサル第三者ハ妄リニ訴訟記錄ヲ閲覽シ及

ヒ謄本等ヲ請求スルヿヲ得ス然レモ當事者ノ承諾ヲ得タルトキ及ヒ其訴訟事件ニ關シテ權利上ノ利害ヲ疏明スルトキハ當事者ノ承諾ナキモ閲覽シ及ヒ謄本等ヲ附與スルヿヲ得ルナリ然レモ第三項ニ記スル所ノ書類ハ其原本ナルト謄本ナルトヲ問ハス當事者ニモ亦第三者ニモ閲覽及ヒ謄本等ノ下附ヲ許サヽルモノトス是レ裁判所ノ合議ハ之ヲ公行セスト云ヘル構成法ノ主義ヨリ出テタルモノナリ

第二節　判決

〔義解〕(二〇二)判決トハ受訴裁判所ニ於テ權利拘束ト爲リタル爭論ニ付テ言渡ス所ノ決斷ヲ云フ凡對席判決ヲ分テ二箇ト爲ス曰ク終局判決曰ク中間判決是レナリ又終局判決ヲ分テ一部終局ト全部終局ノ二種ト爲ス請フ之ヲ左ニ略說セン

第一　全部終局判決　全部終局判決トハ訴訟全躰ノ終局ヲ告クルモノニシテ當事者間ノ爭論ニ係ル目的ヲ判斷スルヲ云フ此ノ判決ニ向テ不服ナルトキハ直チニ上訴スルヿヲ得ルナリ

第二　一部終局判決　此ノ判決ハ訴訟ノ一部分ニ對シテ終局ヲ告クル全部ニ渉ルコトナシ例ヘハ同時ニ同一ノ人ニ對シテ數箇ノ請求ヲ爲シタルトキハ其裁判ヲ爲スニ熟シタル部分ニ向テ終局判決ヲ爲スカ如キ是レ即チ一部ノ終局判決ナリ此ノ判決ハ獨立シテ上訴ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第三　中間判決　此ノ判決ハ訴訟ノ全部若クハ一部ヲ終局スルヿナク唯豫備若クハ中間ノ事項ニ付テ爲ス判決ナリ即チ或ハ終局判決ヲ準備スルカ爲ニ獨立ナル攻擊辯護ノ方法ニ付キ或ハ原被告間ノ中間訴訟ニ付キ爲スモノナリ而シテ此ノ判決ハ一裁判所ニ於テノ訴訟ノ進行中該裁判所及ヒ原被告ニ對シ効力アルモノ

ニシテ此ノ判決ニヨリ定リタル事項ニ關スル新ナル權利伸張ノ方法ハ該裁判所ニ於テ最早之ヲ提出スルヲ許サス且ツ之レニ對シ獨立シテ上訴ヲ爲スヿヲ得ス然レトモ後ニ終局判決ニ對スル上訴ト共ニ不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ又中間判決ハ原被告若クハ原被告ノ一方ト第三者トノ間ニ於ケル中間訴訟ヲ終局スル爲メニ之ヲ爲スヿアリ此ノ種ノ中間判決ハ訴訟本案ノ裁判ニハ毫モ關係セサルヲ以テ獨立シタル即時抗告ノ法ニヨリ不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ然レトモ中間判決ノ例外トシテ妨訴抗辯ニ於ケル判決ノ如キ請求ノ原因ニ付テ爲ス判決ノ如キハ終局判決ト見做シ獨立シテ上訴ヲ許スナリ

以上三種ノ判決ニ對スル効力上ノ事ニ至テハ尚ホ各本條ニ入リテ之ヲ説明ス可シ是レヨリ判決ノ有効ニ必要ナル條件ヲ説明セン

第一　判決ハ適法ノ裁判所ニ於テ言渡シタルヿヲ要ス　若シ其レ行政官ニ於テ裁判ヲ爲サンカ又行政裁判所ニ屬スル事件ヲ司法裁判所ニ於テ言渡スコトアランカ又單純ニ行政處分ニ對スル事件ニ向テ裁判ヲ言渡サンカ何レモ違法ナルヲ以テ未タ判決ノ本躰ヲ爲サヽルナリ之ヲ換言セハ根本ヨリ裁判アリタルモノト言フコトヲ得サルモノトス故ニ裁判ハ適法ナラサル可カラサルナリ

第二　判決ハ定數ノ判事ヲ以テ構成シタル裁判所ニ於テ言渡スヿヲ必要トス　地方裁判所ニ於テハ三名ノ判事ヲ以テ控訴院ニ於テハ五名ノ判事ヲ以テ大審院ニ於テハ七名ノ判事ヲ以テ組織シタル法廷ニ於テ言渡シタルヿヲ要ス

第三　判決ニ列席スル判事ハ最終ノ口頭辯論ニ列席シタル事ヲ必

要トス　佛國學者ノ唱道スル所ニ依レハ判事ハ各回ノ口頭辯論ニ臨席シタルヿヲ要スト云ヘリ其說ニ曰ク實ニ判事ハ己レノ吟味ヲ爲サヽルノ點ニ係ル言渡ニ付テハ決シテ關係スルヿヲ得ス若シ右ノ裁判官カ其言渡ニ關係スルトキハ訴訟ノ趣意ヲ充分會得セスシテ裁判ヲ爲スノ不都合ヲ生セン之ヲ換言セハ充分ノ心證ヲ作ルヿヲ得サル可シト此ノ說ニ依ルトキハ各回ニ臨席セサル可ラスト雖モ訴訟法ニ於テハ必スシモ各回ニ臨席シタルヿヲ要セス判決ノ基本ト爲ル可キ口頭辯論ニ出席シタル判事ヲ以テ言渡スヿヲ得ルナリ又其判決ニハ必ス合議ニ參與シタル判事ノ署名捺印シタルヿヲ要ス若シ合議ニ參與セサル判事ナルトキハ違法ノ判決タルヲ免レサルナリ

第四　判決ノ評議ハ陰密ニ爲スヿヲ必要トス　合議ヲ陰ニ爲スヿハ構成法ノ主義ニシテ蓋シ判事ノ獨立ヲ圖リ其意見ヲ充分ニ吐露セシメンカ爲メナリ故ニ若シ其合議ニシテ公ケナラス其合議ノ決定ニシテ裁判言渡ノ前ニ漏洩スルヿアルトキハ其合議ハ無効ニ歸スルモノナリ

第五　判決ノ言渡ハ公ケニ爲スヿヲ要ス　裁判言渡ヲ公ケニ爲スヿハ憲法ノ原則ニシテ蓋シ社會公衆ノ信用ヲ保タンカ爲メナリ故ニ例ヘハ偶〻公判審理ヲ秘密ニ爲スト雖モ其言渡ニ至テハ之ヲ公開セサル可ラサルナリ

第六　判決ハ其理由ヲ釋明スルヿヲ要ス　判決ヲ言渡ストキニ在テハ只主文ノミヲ朗讀シテ敢テ理由ヲ說明セサルモ無効ナリト言フニアラサレトモ其判決書ニハ必スヤ主文ニ適應スルノ理由ヲ付セサル可ラス若シ理由ヲ付セサルトキハ未タ判決自躰ヲ組成セサ

ルモノナリトス

以上説明スルカ如ク判決ニハ必スヤ六個ノ條件ヲ具備セサル可ラス若シ其一ヲ欠クトキハ判決自躰ヲ組成セサルモノト爲ルナリ然シテ其條件ヲ具備スルノ判決ハ如何ナル効果ヲ生スルカ即チ左ノ効果ヲ生ス

第一　判決ハ原告若クハ被告ヨリ法式ニ從ヒ上訴ヲ爲サヽル間ハ之ヲ正當ナリト假定ス

第二　判決ハ強制執行ヲ得セシムルノ効ヲ生ス

第三　判決ハ權利者ヲシテ其權利ヲ保證スル爲メ義務者ノ現ニ所有スル財產及ヒ將來ニ所有スル財產ニ付キ書入質ノ權ヲ得セシム

第四　判決ノ確定シタルトキハ訴訟ヲ結了ス

第五　判決ハ短期ノ時効ヲシテ長期ノ時効ニ更メシム

第六　判決ハ被告人ノ勝訴ト爲リタルトキハ該訴訟ニテ中斷シタル時効ノ斷絶ヲシテ消滅ニ歸セシム

第七　判決ハ既判効ヲ生スルヲ以テ一事再理セサルノ基礎ト爲ル」

○判決ノ性質ハ如何是レ古今學士ノ一問題トスル所ナリ其説ノ大要左ノ如シ

第一説　判決ハ一ノ和解契約タルニ過キス即チ强令ノ和解契約ナリ當事者ハ其判決ヲ判事ニ委ヲ以テ其局ヲ結ハンヿヲ暗ニ約シタルモノナリ猶ホ仲裁人ニ委ヲ其判斷ヲ受クルカ如シ裁判言渡モ亦決シテ之レニ異ナラサルモノナリ

第二説　判決ハ法律ノ効果ニ出ツル權威ナリ何人ト雖モ法律ニハ從ハサル可ラサルノ義務アリ判決モ亦法律ニ依テ出ツルモノナレハ則

チ法律ト同一ノ權威力ヲ有スル者ニシテ其性質タル法律ト同一ナリ」

第三說　判決ハ公權ヨリ生スル命令ナリ法律ハ國民ノ意志ヨリ生スルモノナレトモ裁判言渡ハ天皇ノ名ニ於テ行ノ所ノ判事ノ意志ヨリ出ツルモノナリ故ニ法律トハ全ク性質ヲ異ニシテ主權者ノ命令ナリト言フ可シ此ノ命令ニ服從スルヿハ人民カ國家ヲ爲ストキニ於テ承認シタルモノナリトス

判決ノ性質ニ付キテハ以上ノ數說アルモ何レモ未タ確定セス其取捨ハ各自ノ識見ニ任セン

第二百二十五條　訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟中ノ一ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦同シ

第罰スベキ行為の構疑

〔義解〕（二〇三）本條ハ中間判決ニ對スル終局判決ノ場合ヲ示シタルモノナリ抑ヽ訴訟事件ニシテ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ其事件ニ向テ判斷ヲ爲サヽル可ラス其裁判ヲ爲シ得ル程度ニ熟シタルヤ否ヤハ專ラ裁判長ノ觀察ニ在リ去レハ通常口頭辯論ノ終結シタルトキハ裁判ヲ爲スニ熟シタルモノト看做サヽル可ラス然シテ一旦口頭辯論ヲ終結シタル後ト雖モ尙ホ未タ裁判ヲ爲スニ熟セスト思料スルトキハ再ヒ口頭辯論ヲ開ク爲メ當事者ヲ呼出スヿヲ得ルナリ

本條第一項ニ所謂終局判決ヲ以テト記セシハ上訴ヲ爲シ得ル事件ノ裁判ヲ云フナリ然リ而シテ第二項ニ同時ニ辯論云々ト云ヒシハ第百二十條ニ依リ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ヲ併合シテ辯論ヲ爲ス可キヿヲ命シタル場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テ其數個ノ訴訟中ノ一ニシテ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ又其熟シタル點ニ向テ裁判ヲ爲ス

コトヲ得ルナリ彼ノ第四十八條ノ場合及ヒ第百九十一條ノ場合ハ假令一部分裁判ヲ爲スニ熟スト雖モ本條第二項ニ依テ裁判ヲ爲スノ限リニアラサルナリ

共同訴訟

本條ニ依リ終局判決ヲ爲スヿニ於テ其訟求正當ナルヿハ其判決ハ其訟求ニ相當ナル判決即チ確定ノ訴ヘニ付テハ其訟求ニ係ル確定ヲ示シ又被告ヲシテ義務ヲ盡サシメントスル訴ニ付テハ其義務ヲ盡ス可キヿヲ示ス可シ又之ニ反シ訟求ノ正當ナラサル場合ニ於テハ訴訟ヲ却下スルノ判決ヲ爲ス可シ被告敗訴ノ判決ニハ常ニ原告民法ニ從ヒ要求ス可キ事項即チ金圓ノ支拂又ハ物件ノ引渡若クハ供給其他行爲若クハ不行爲ノ義務ニ付キ判決ヲ爲ス可キモノトス然シテ訴訟ノ却下ニハ將來ニ對シ爲スヿアリ即チ原告ヲシテ永ク被告ニ對シ請求權ヲ失ハシムルヿアリ又一時之ヲ爲スヿアリ即チ延期ノ抗辯ノ爲メ其條件ノ發生スル迄訴訟ヲ退ケラルヽヿアルナリ

又妨訴抗辯ノ場合ニ於テ被告ヨリ提出シタル妨訴ノ抗辯又ハ職權ヲ以テ調査ス可キ妨訴ノ申立適當ナルカ爲メ本條ニ關係ナキヿハ常ニ一時訴訟ヲ却下スルノ言渡ヲ爲スモノナリ訴訟ヲ一時却下スルノ判決ハ現ニ提出シタル訟求ノ方法ニ於テハ之ヲ却下スル旨ヲ示シ又特別ナル場合例ヘハ裁判所ノ管轄違ナル爲メ訴訟ヲ却下スル場合ニ於テハ單ニ裁判所ヨリ之ヲ却下スル旨ヲ示シ或ハ訴訟費用ニ關スル保證ヲ立テス若クハ前訴訟費用ヲ辨償セサルニ於テハ條件ノ到着スル迄之ヲ却下スル旨ヲ示シ或ハ原告若シ許ス可ラサル訴訟ノ種類ニ依リ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ其現ニ提出シタル訴訟ハ法律ニ於テ許サヽル旨ヲ示ス可キモノトス

全部終局判決ニ付テハ既ニ前ニ少シク述ヘタルカ兎ニ角全部判決ヲ爲

爲スニ熟スルトキニ於テ之ヲ爲スモノナリ又裁判所ノ命令ヲ以テ數箇ノ請求ヲ同時ニ審判スル場合ニシテ其請求ノ悉ク裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦同一ナリトス殊ニ口頭審理ニ於テ原告其請求ヲ全ク拋棄シ又ハ被告カ全ク原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ訴訟ハ全部ノ終局判決ヲ爲スニ熟シタルモノトス請求ヲ拋棄シタル場合ニ於テ原告ノ申立アルトキハ直ニ請求ヲ却下スル旨ヲ言渡シ認諾ノ場合ニ於テ原告ノ申立アルトキハ直ニ訟求ニ應ス可キコトヲ言渡ス可キモノトス此ノ如ク爭ヒナキ場合ニ於テモ判事ハ妄リニ訴訟ヲ却下スルコトヲ得サルナリ

第二百二十六條　一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇又ハ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ起シタル場合ニ於テハ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決(一分判決)ヲ以テ裁判ヲ爲ス

然レトモ裁判所ハ事件ノ事情ニ從ヒテ一分判決ヲ相當トセサルトキハ之ヲ爲ササルコトヲ得

〔義解〕(二〇四)本條ハ終局判決ヲ以テ一分判決ヲ爲ス場合ヲ規定セシモノナリ其場合左ノ如シ

第一　第四十八條ノ場合即チ第一數人カ訴訟物ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツトキ第二同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ第三性質上同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ第四同一ノ被告ニ對スル原告ノ請求數箇アル場合ニ於テ其各請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有シ且ツ

法律ニ於テ同一種類ノ訴訟手續ヲ許ストキハ其請求ヲ併合シテ一個ノ訴ト爲シタルトキハ是レナリ

第二　一個ノ請求ナルモ可分的ノモノニ屬スルトキハ之ヲ分離シテ審判スルヿヲ得ルニヨリ其中ノ或ル一分ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ之レニ向テ一分ノ終局判決ヲ爲スヿヲ得ルナリ消費貸借ノ場合ニ於テ常ニ之ヲ見ルナリ

第三　本訴又ハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ其熟シタル部分ニ向テ裁判ヲ爲スヿヲ得ルナリ

以上三個ノ場合ニ於テハ常ニ終局判決トシテ一分ノ判決ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ素ト此ノ一分判決ヲ爲スト否ヤトハ判事ノ意見ニ任スルヲ以テ若シ事情上一分判決ヲ相當トセサルトキハ之ヲ爲サヽルコトヲ得ルナリ本條ノ判決モ亦獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二百二十七條　各箇ノ獨立ナル攻擊若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ爭カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕〔二〇五〕本條ハ中間判決ノ事ヲ規定シタルモノナリ中間判決ノ本則ハ攻擊防禦ノ方法ニ付キテ事件審理ノ錯雜ヲ避クルカ爲メ爲スモノナリ故ニ獨立セル上訴ヲ許サヽルヲ以テ原則ト爲ス其理由他ナシ若シ中間判決ニ對シ悉ク上訴ヲ許スモノトセハ訴訟人ハ種々ナル攻擊防禦ノ方法ヲ提出シテ中間判決ヲ受ケ以テ上訴ヲ爲スニ至ル可シ然ルトキハ事件延滯ノ恐レアリ加之ナラス中間判決ノ性質ハ本案ニ關係セサルヲ以テ假令中間判決ノ確定ニ至ルモ本案ニ影響ヲ及スコトナシ又實躰上中間判決ハ確定セサルモノナリ其故ハ中間判決

効力

ニ敗ヲ取ルモ終局判決ニ至リテ勝利ヲ得ルトキハ其攻撃防禦ノ方法ニ對スル判決ハ爲メニ事實上効力ヲ失フニ至ルモノナリ是レ純粹ノ中間判決ニ對シテハ獨立ノ上訴ヲ爲サヽル所以ナリトス然レヒ中間判決ト雖モ請求ノ原因ニ向テ爲スカ又ハ妨訴抗辯ニ付キ與ヘタル判決ハ本案ニ影響ヲ及スニヨリ獨立ノ上訴ヲ許スモノナリ

○純粹ノ中間判決ヨリ生スルノ効果如何

第一　中間判決ヲ受ケタル攻撃防禦ノ方法ハ其訴訟中再ヒ提出スルヿヲ許サス

第二　中間判決ヲ受ケタル攻撃防禦ノ方法ハ裁判所ヲ羈束スルヲ以テ終局判決ヲ爲スキハ之レニ基カサル可ラス

第三　中間判決ハ例外ノ場合ヲ除ク外獨立シテ上訴ヲ爲スヿヲ許サス然レヒ本案ノ上訴ト共ニ其不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ

○終局判決ト中間判決トノ差異如何

第一　終局判決ハ訴訟ノ目的物ニ向テ裁判ヲ與フルモノナレヒ中間判決ハ目的物ニ對スルヿナク訴訟ノ進行中ニ於ケル攻撃防禦ノ方法ニ向テ裁判ヲ與フルモノナリ

第二　終局判決ハ上訴期限ヲ經過スルキハ形式上、實躰上確定スルモノナレヒ中間判決ハ確定スルヿナキヲ以テ上訴期限ヲ經過スルモ本案ト共ニ不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ

第三　終局判決ハ常ニ上訴ヲ爲シ得ルモノナリ中間判決ハ獨立ノ上訴ヲ爲シ得サルヲ以テ原則ト爲ス

第四　訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルキハ裁判所ハ必スヤ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲サヽル可ラス然ルニ中間判決ハ之ヲ爲スト否ヤトハ判事ノ隨意ニ在リ

第二百二十八條　請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭アルトキハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト見做シ其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

〔義解〕(二〇六)本條ハ請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭ヒノ生シタル場合ニ適用ス可キ法條ナリ故ニ本條ヲ適用センニハ左ノ二條件ノ具備ヲ要ス

第一　請求ノ原因ニ付キ爭ヒアルヿ

第二　請求ノ數額ニ付キ爭ヒアルヿ

若シ其レ被告カ請求ヲ認諾スルカ又ハ數額ヲ認諾スルカ何レカ其一ニ付テ爭ヒナキトキハ本條ヲ適用スルコトヲ得サルナリ例ヘハ損害賠償ノ請求事件ニ於テ被告ハ損害ヲ賠償スルノ責任ナシト言フトキハ勿論其數額ニ付テモ爭ヒアルモノナリ故ニ此ノ場合ニ於テハ先ツ其損害負擔ノ責任アルヤ否ヤヲ判決スルモノナリ其原因ニ付キテ先ツ判決ヲ下スヿハ裁判所ノ適宜ナレトモ斯ル二條件ノ具備スル場合ニ於テハ其原因ニ付キ判決スルヲ便宜ナリト爲スナリ

本條ハ中間判決ナレトモ上訴ヲ爲シ得ルモノナリ之ヲ詳ニ言ヘハ其請求ノ原因不當ナリト言渡サレタルトキハ其判決ハ眞ノ終局判決ナルヲ以テ上訴ヲ爲スヿヲ得ルナリ之レニ反シテ其請求ノ原因正當ナリト言渡サレタルトキハ性質上中間判決ナリ然レトモ其確定ヲ妨クルカ爲メニ直チニ上訴ヲ爲スヿヲ得ルナリ其レ然リ上訴ヲ爲シタルトキハ當然

爾後ノ訴訟手續ヲ中止スルモノナレトモ當事者ノ申立ニ因リテハ數額ニ付キ先ツ辯論ヲ命スルヿヲモ得ルナリ

第二百二十九條　口頭辯論ノ際原告其訴ヘタル請求ヲ拋棄シ又ハ被告之ヲ認諾スルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ其拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ以テ却下又ハ敗訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

〔義解〕(二〇七) 口頭辯論ノ際ニ於テ原告カ其請求ヲ拋棄シタルトキハ被告ノ申立ニ依リ判決ヲ以テ其訴訟ヲ却下ス可キモノナリ又被告カ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ原告ノ申立ニヨリ被告敗訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノナリ若シ原告モ被告モ其申立ヲ爲サヽルトキハ如何ト云フニ假令原告カ其請求ヲ拋棄スト雖モ又被告カ請求ヲ認諾スト雖モ妄リニ其訴訟ヲ却下スルヿヲ得ス裁判所ハ相當ノ判決ヲ爲サヽル可ラサルナリ

訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニアラスンハ請求ヲ拋棄スルヿヲ得ス又義務ヲ認諾スルヿヲ得ス假令口頭辯論ノ際之ヲ拋棄シ或ハ認諾スト雖モ無効ナリトス故ニ訴訟代理人ニ在テ右ノ所爲ヲ爲ストキハ裁判所ハ宜シク特別ノ委任ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査シテ之ヲ爲ス可キナリ

第二百三十條　判決ハ辯論ヲ經タル總テノ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ包括ス

然レトモ數箇ノ獨立ナル攻擊又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ適切ナリトスルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付キ判斷スル義務ナシ

〔義解〕(二〇八) 凡ソ判決書中ニハ總テノ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ包括

ス可キモノナリ故ニ攻撃防禦ノ方法ニ向テ説明ヲ與ヘサル可ラス若シ其レ理由ヲ付セス只判事ノ自由ナル心證ニ依テ判決スト言ハヽ是レ其心證ヲ得タル原由ヲ記セサルモノナルヲ以テ所謂裁判ニ理由ヲ付セサルモノナリ裁判ニ理由ヲ付セサルトキハ上告ノ原由ト爲ル可キモノトス

然レトモ訴訟ニハ數個ノ攻撃防禦ノ方法アルモノナリ其數個ノ方法ニ向テ悉ク理由ヲ付シテ判斷セヨト言フニアラス其中最モ適切ナル攻撃防禦ノ方法ニシテ本件ヲ判斷スルニ足ル可キ事項ニ向テ理由ヲ付シタルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付キ判斷スルノ義務ナキモノトス故ニ悉皆ノ方法ニ向テ理由ヲ付セサルモ上告ノ原由ト爲ラサルナリ

第二百三十一條　裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムル權ナシ

裁判所ハ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲ス可シ然レトモ一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得

〔義解〕(二〇九) 本條ハ目的外ノ事物ヲ言渡スヿヲ得ストノ原則ヨリ出テタルモノナリ即チ申立テサル事項ニ向テ言渡ストキハ當事者ノ目的外ノ事ヲ負擔セヨト命スルモノナリ此ノ如キ權利ハ裁判官ノ決シテ有セサル所ナリトス故ニ例ヘハ收實權ノ占有ヲ訴ヘタルニ裁判官ハ所有權ヲ取戻ス可シト言渡スヿヲ得ス又損害要償五千圓ヲ訴ヘタルニ被告ハ一千圓ナラハ其請求ニ應ス可シト答辯セシトキ裁判官ハ五千圓ノ要求モ不當ナリ一千圓ノ認諾モ不當ナリ其半額タル二千五百圓ヲ拂フ可シト言渡スヿヲ得サルナリ若シ之ヲ言渡ストキハ申立テサ

ル事項ニ向テ判決ヲ爲シタルモノト言フ可シ

訴訟費用ハ損害賠償ニ外ナラスト雖モ終局判決ヲ爲ストキニ於テハ相手方ノ申立テアラサルモ判決ヲ以テ敗訴者ノ負擔ニ歸セシムルノ言渡ヲ爲スヿヲ得可シ是レ當事者ハ明言セサルモ暗ニ敗訴者ヨリ訴訟費用ノ辨濟ヲ得ソヿヲ請求シタルモノト見做スニヨルナリ然レトモ明カニ費用ノ要償權ヲ拋棄シタルトキハ裁判所ハ之ヲ言渡スノ權ナシ何トナルニ損害要償ハ之ヲ請求スルト否ヤトハ各自ノ有スル私權ノ自由ナレハナリ

斯ク訴訟費用ニ限リ申立テアラサルモ言渡ヲ爲ストキハ或ハ第一項ノ原則ニ牴觸スルカ如クナレトモ決シテ然ラス法律ハ當事者カ暗ニ敗訴者ヨリ其ノ費用ヲ得ソヿヲ法律ニ由テ請求スルノ意志ナラントノ推測ヲ裁判官ニ委シタルモノナリ故ニ第一項ノ原則ニ牴觸スルヿナシ

然レトモ假令終局判決ト雖モ一分判決ニシテ全部ノ結了ヲ告ケサルモノナルトキハ費用ノ裁判ヲ後ニ讓ルヿヲ得ルナリ

素ト本條第二項ノ訴訟費用ニ係ル言渡ハ裁判官ノ隨意ニ委シタルモノナルヲ以テ必ス之ヲ爲セヨト言フニアラサルナリ

第二百三十二條 判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ限リ之ヲ爲ス

第二百三十三條 判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡ス其期日ハ七日ヲ過クルコトヲ得ス

第二百三十四條 判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス闕席判決ノ言渡ハ其主文ヲ作ラサル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

裁判ノ理由ヲ言渡スコトヲ至當ト認ムルトキハ判決ノ言渡ト同時ニ其理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ク可シ

〔義解〕(二一〇) 訴訟法ニ於テハ悉皆ノ口頭辯論ニ出席シタル判事ニアラスンハ判決スルコトヲ得スト言フノ意ニアラサルヿハ既ニ之ヲ述ヘタリ只判決ノ基本ト爲ル可キ口頭辯論ニ出席シタタ判事ナルヿヲ要ス即チ最終ノ口頭辯論ニ臨ミタル判事ニアラスンハ判決ノ列ニ加ハルコトヲ得ス然ラハ愈〻法廷ニ出テヽ言渡ストキモ其署名ノ判事ニアラスンハ出席スルヲ得サルカト云フニ或ル人ハ判決ノ基本タル口頭辯論ニ臨ミタル判事カ合議シテ判決書ニ署名シタル以上ハ偶〻判決ノ日ニ當テ故障出來シ臨席セスト雖モ違法ノ處爲ニアラス何トナルニ判決ヲ言渡スハ形式ニ止ルヲ以テ强ヒテ口頭辯論ニ出席シタル判事タルヿヲ要セサルナリト言ヘリ然レトモ余ノ考フル所ニ因レハ此ノ說タル不穩當タルヲ免レサルモノヽ如シ其故ハ判決ト云ヘルヿハ只合議ヲ爲シテ判事ノ間ニ決定ヲ爲シタル迄ヲ言フニアラス其合議ノトキヨリ判決書ニ署名シ法廷ニ臨ミ當事者ニ對シ言渡ノ終ル迄ヲ言フモノナリ故ニ法廷ニ立テ是非曲直ヲ言渡スヿハ單ニ形式上ノ處爲ノミニアラスシテ實躰上ノ効力ヲ發生スルモノナルヲ以テ判事カ公然言渡シタル後ニアラスンハ判決ノ効力ヲ發生セサルナリ然ルニ若シ或人ノ說ノ如クスルトキハ合議ヲ爲シテ判決書ニ署名シタルトキハ之ヲ公然言渡サヽルモ判決ノ効力發生スルモノナリト言ハサル可ラサルニ至ル殊ニ或人ノ說ノ如ク署名判事ト言渡ヲ爲ス判事トハ別人ナルモ差支ナシトセハ其極遂ニ合議裁判所ニ於テ一人ノ判事ニテ言渡ヲ爲シ得ルニ至ル可シ何トナルニ實際判決書ニ署名セサル判事カ法廷

ニ臨ムト雖モ此ノ判事ハ曾テ其審理ニ與リタルモノニアラサルヲ以テ其判決ニ向テハ何等ノ威力ヲモ有セス恰モ人形ヲ据ヘテ言渡ヲ爲シタルモノト同一ニ至ルナリ此ノ説ヲシテ擴張スルトキハ判事悉ク差支ノ生シタルトキハ書記ヲ以テ言渡ヲ爲サシムルモ形式上ノ處爲ナリトシテ尚ホ有効ナリト爲サヽル可ラサルニ至ル實ニ奇怪ノ結果ヲ生スルニアラスヤ

裁判所構成法ノ精神ヨリ考フルモ地方裁判所ニ在テハ三人ノ判事列席シテ言渡ヲ爲サヽル可ラス控訴院ニ於テハ五人ノ判事列席シテ言渡ヲ爲サヽル可ラス大審院ニ於テハ七人ノ判事ニテ言渡ヲ爲サヽル可ラス然シテ其言渡ヲ爲ス判事ハ必スシモ合議ニ參與シ判決正本ニ署名シタルモノナラサル可ラス故ニ若シ左ノ場合ニ遭遇スルトキハ違法ノ裁判ナリトシテ上告又ハ再審ノ原由ト爲ルナリ

第一　判決ノ基本ト爲ル可キ口頭辯論ニ出席セサル判事カ合議ニ參與シテ判決ニ署名シタル場合

第二　合議ニ參與シテ判決書ニ署名シタル判事ト實地言渡シヲ爲シタル判事トハ別人ナリシ場合

第三　法律ニ定メタル員數ノ欠ケタル判事ニ於テ言渡ヲ爲シタル場合

判決ハ如何ナル期限内ニ於テ言渡スモノナルヤハ第二百三十三條ニ定メタリ凡ソ判決ハ口頭辯論ノ終結シタル期日ニ於テ言渡スヲ以テ通則トシ指定スル期日ニ於テ言渡スヲ以テ變例トス其期日モ亦七日ヲ過クルヿヲ得サルナリ抑民事ハ證據裁判ナリト雖モ其證據ヲ取捨スルノ權能ハ心證ニ在リ故ニ心證ノ未タ腦中ヲ去ラサル間ニ於テ合議ヲ爲シ以テ判決スルヲ至當ナリトス若シ其レ終結後十餘日ヲ經過

シテ言渡スヿヲ得ルモノトスルトキハ判事ノ心證自ラ消滅スルニ至ラン且ツ事件ノ延滞ヲ來スニ至ラン是レ終結ノ日ニ於テ可成的言渡ヲ爲セヨト言フ所以ナリ然レトモ事件錯雜シテ容易ニ合議ノ決セサルトキニ在テハ指定シタル期日迄之ヲ延ハスヿヲ得ルナリ

判事ノ合議ハ只原告直被告曲ナリト述フルニ止ルカ將タ判決ノ理由ト爲ル可キ程度ニ至ル迄ノ理由ヲ述ヘサル可ラサルカ曰ク單純ニ直又ハ曲ト述フルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス必スヤ相當ノ理由ヲ述ヘサル可ラサルナリ然シテ合議ハ審理ノ順序ニ從テ合議決定スルヲ通例ト爲スモノナリ

從來ハ必ス判決書ヲ作リ其主文ト理由トヲ同時ニ言渡シタルモノナレトモ訴訟法ニ於テハ簡便ヲ主トスルカ爲メニ判決主文ノ朗讀ニ依テ言渡スヿヲ得ルナリ然シテ其理由ヲ示スノ必要アルトキハ之ヲ朗讀シテ言渡スモ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ言渡スモ判事ノ隨意ナリトス然レトモ判決主文ニ至テハ必スシモ書面ニ依テ言渡ヲ爲サヽル可ラス是レ其正確ヲ保センカ爲メナリ若シ其判決主文ヲ口頭ニテ言渡シタルトキハ違法ノ所爲ナルヲ以テ上告ノ原由ト爲ルモノトス然レトモ欠席判決ニ係ルトキハ主文ヲ作ラサル前ト雖モ其勝敗顯著ナルヲ以テ口頭ニテ言渡スヿヲ得ルナリ

第二百三十五條　判決ノ言渡ハ當事者又ハ其一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラス其効力ヲ有ス

言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ他ニ其判決ヲ使用スル原告若クハ被告ノ權ハ此法律ニ特定シタル場合ヲ除ク外相手方ニ其判決ヲ送達スルト否トニ拘ハラサルモノトス

〔義解〕(二一一) 判決ノ言渡ハ憲法上ノ原則ニヨリ必スシモ公ケニ之ヲ言渡サヽル可ラス之ヲ公然言渡ス以上ハ社會公衆ハ其判決アリタルヿヲ知リタルモノト見做スニヨリ當事者ノ出廷シテ之ヲ聞クト聞カサルトハ効力上ニ影響ヲ生スルヿナシ假令出廷セサルモ其言渡ノ効力アルモノトス

故ニ判決ノ言渡アリタルトキハ其言渡書ノ送達ナキモ効力ヲ生スルヲ以テ其判決ニ依リ利益ヲ得ントスル者ハ之ヲ援用スルヿヲ得ルナリ例ヘハ純然タル中間判決ノ之レアリタルトキハ原告若クハ被告ノ申立ニヨリ訴訟手續ヲ續行シテ本案ノ辯論ヲ爲サシムルヿヲ得ルナリ此ノ場合ニ於テ本案ノ辯論ハ中間判決ヲ爲スカ爲メニ停止シ置キタレモ既ニ判決アリタルヿヲ述ヘテ其續行ヲ求ムルヿヲ得ルナリ其他判決ヲ使用シテ利益ヲ得可キ事柄ニ關スルトキハ判決アリタルノミヲ以テ之ヲ援用スルヿヲ得ルナリ然レモ不變期限ノ如キハ判決アリタルノミヲ以テ未タ其効ヲ生セス必スヤ裁判言渡書ヲ相手方ニ送達シタル時ニアラスンハ經過ヲ始メサルモノトス法律ニ特定シタル場合トハ即チ之ヲ云フナリ

第二百三十六條　判決ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名身分職業及ヒ住所

第二　事實及ヒ爭點ノ摘示但摘示ハ當事者ノ口頭演述ニ基キ殊ニ其提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ス

第三　裁判ノ理由

第四　判決主文

第五　裁判所ノ名稱裁判ヲ爲シタル判事ノ官氏名

〔義解〕(二一二) 本條ハ隨意法ナルヤ曰ク隨意法ニアラサルヲ以テ必ス第一號ヨリ第五號ニ至ル迄ノ項目ハ判決書ニ記載セサル可ラス若シ其項目ヲ遺脫スルヿアルトキハ或ハ上告ノ原由ト爲リ或ハ判決書更正ノ原由ト爲ルナリ然レトモ順序ハ必スシモ之レニ從フヲ要セス其順序ヲ變更スト雖モ以テ上告ノ原由ト爲スヿヲ得サルナリ

是レヨリ以上ノ各項ニ付キテ其大要ヲ述ヘンニ當事者及ヒ代理人ヲ記スル所以ハ何人ノ間ニ訴訟起リテ此ノ判決ハ何人ノ間ニ其効力アルヤヲ示サンカ爲メナリ事實及ヒ爭點ヲ摘示シテ之ヲ判決書ニ記スル所以ハ如何ナル訴訟ナルヤ從テ當事者ノ爭點ハ何レニ在ルヤヲ知ラシメンカ爲メナリ故ニ事實ノ大略ニ至テハ必スヤ之ヲ記載セサル可ラス或ハ裁判所ニ於テ不必要ナル事實ナリト認ムルヿアルモ其大略ヲ記セサル可ラス蓋シ下級裁判所ニ於テ不必要ナリトスルモ上級審ニ於テハ之ヲ必要トスルヿアル可ケレハナリ故ニ若シ事實ヲ遺脫スルヿアルトキハ以テ上告ノ原由ト爲スヿヲ得可シ又裁判ノ理由ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ記載セサル可ラス蓋シ理由ハ判決ヲシテ明瞭ナラシムル所ノ基本ナルヲ以テ若シ之ヲ記セサルトキハ如何ナル理由ニテ勝敗アリタルヤ得テ知ル可ラス此ノ理由トハ各爭點ニ付キ細ニ付ス可キモノナルヤ曰ク判決ノ基本ト爲ル可キ爭點ニ對シ理由ヲ付スルトキハ其他枝葉ノ點ニ向ヒ理由ヲ付セスト雖モ上告ノ原由ト爲ラス若シ主要ノ點ニ對シ理由ヲ付セサルトキハ絕對的ニ上告ノ理由ト爲スヿヲ得可シ又判決主文ヲ記スル所以ハ當事者ノ申立テタル訴訟ノ目的ヲシテ明確ナラシメンカ爲メナリトス

第二百三十七條　判決ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判

事署名捺印ス若シ陪席判事署名捺印スルニ差支アルトキハ其理由ヲ開示シテ裁判長其旨ヲ附記シ裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ヲ附記ス

判決ノ原本ハ言渡ノ日ヨリ起算シテ七日内ニ裁判所書記ニ之ヲ交付ス可シ

裁判所書記ハ言渡ノ日及ヒ原本領收ノ日ヲ原本ニ附記シ且其附記ニ署名捺印ス可シ

〔義解〕(二一三) 本條ハ判決原本ノ事ヲ記シタルモノナリ判決ノ原本ニ裁判ヲ爲シタル判事カ署名捺印スル所以ハ審理ヲ爲シタル判事ト言渡ヲ爲シタル判事ト同一ノ判事タル事ヲ正確ニ知ラシメンカ爲メナリ若シ病氣轉官等ノ事故ニテ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記セサル可ラス又判決ノ原本ハ言渡ノ日ヨリ起算シテ七日内ニ書記ニ交付スル所以ハ判決正本ヲ作ルニ付キ遲延ヲ防キタルモノナリ其他本條ニ付キ説明ヲ要スルヿナシ

第二百三十八條　各當事者ハ判決ノ送達アランコトヲ申立ツルコトヲ得其申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達ス可シ

〔義解〕(二一四) 本條ハ判決正本送達ノ事ヲ規定セシモノナリ舊法ニ於テハ裁判言渡ヲ爲スヤ必ス裁判言渡ヲ當事者ニ交付シ其紙數ニ應シテ印紙ヲ貼用セシメタルモノナリ故ニ判決書ヲ必要トセサルモ尚ホ印紙ヲ貼用シテ之ヲ受ケサル可ラサルニ至ル新法ハ此ノ如キ强制的ノ主義ヲ去リ自由的ノ方法ヲ取リ其之ヲ必要トスル者ニ下附スルヿトセリ故ニ判決書ヲ必要トスル者ハ判決送達ノ申請書ニ五十錢ノ

印紙ヲ貼用シテ之ヲ差出ス可キモノトス然シテ不變期限ハ判決ノ送達アリタルトキヨリ其經過ヲ始ムルモノナリ凡ソ判決書ヲ必要トスル者ハ執行文ノ附與ヲ請求スル場合不變期限ノ經過ヲ爲サシムル爲メノ場合其他判決正本ヲ以テ他ニ起リタル訴訟ノ證據ニ供スル場合等ナリ此等ノ必要アルカ爲メニ之ヲ請求スルハ各自ノ權利ナレ𪜈其必要ナキニ之ヲ强ヒテ下附スルハ道理ニ適セサルモノトス是レ訴訟法カ斷然自由方法ヲ取リタル所以ナリ

第二百三十九條　未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署各捺印セサル間ハ裁判所書記ハ其正本抄本及ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得ス

裁判所書記ハ判決ノ正本抄本及ヒ謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可シ

第二百四十條　裁判所ハ其言渡シタル終局判決及ヒ中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ニ羈束セラル

第二百四十一條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ判決中ノ違算書損及ヒ此ニ類スル著シキ誤謬ヲ更正ス

此更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得

右更正ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス更正ヲ宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕（二一五）第二百三十九條ニ付テハ殆ント説明ヲ要セス未タ判決ヲ言渡サス又未タ判事カ判決書ニ署名捺印セサル間ハ有効ノ判決

書ニアラサルヲ以テ之ヲ當事者ニ附與スルヲ得サルヿ固ヨリナリ假令之ヲ付與スルト雖モ判決ヲ言渡サヽル前ニ在テハ何等ノ効力ヲモ有スルヿナク又未タ署名捺印セサルモノニ在テハ判決書ノ体ヲ爲サヽルナリ裁判所書記カ一タヒ裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證スルヤ其正本謄本抄本ハ公正ノ書ト爲ルナリ

第二百四十條ハ自己ノ言渡ニ向テハ遵守セサルヲ得ストノ原則ヨリ出テタルモノナリ即チ裁判所ハ己ノ言渡シタル裁判ニ羈束セラル可キモノトス其終局判決タルト中間判決タルトヲ問ハス判決ノ中ニ包含シタル裁判ハ自己カ正當ト認メテ言渡シタルモノナレハ爾後其訴訟ノ進行中其裁判ニ從ハサル可ラス就中中間判決ニ於テ此ノ條ノ効力ヲ見ルナリ例ヘハ損害賠償ノ事件ニ於テ先ツ原因ニ付キ中間判決ヲ以テ損害賠償ノ責任アリト言渡シタルトキハ終局判決ニ至リテ損害ヲ賠償スルノ責メナシト言フヿヲ得サルナリ又中間判決或ハ一部ニ係ル終局判決ヲ下シタル後ニ於テ判事ニ變更アリト雖モ後ノ判事ハ前キノ判決ニ從ハサル可ラサルナリ然レモ左ノ場合ニ於テハ前ノ判決ニ羈束セラルヽヿナシ

第一　前ノ判決カ欠席判決ニシテ故障ノ申立アリ更ニ審判ヲ開ク場合

第二　前ノ判決ニ瑕瑾アリテ破毀ノ上上級審ニ差戻サレ更ニ審判ヲ開ク場合

第三　中間判決ヲ爲シタル後本案ニ付キ欠席判決ヲ以テ訴ヘヲ却下スル場合

此ノ三箇ノ場合ニ於テハ前ノ判決ニ羈束セラルヽヿナシ

第二百四十一條ハ判決書更正ノ事ヲ定メタルモノナリ更正ハ裁判ヲ

再ヒ爲スニアラスシテ著シキ誤謬ヲ正スモノナリ即チ違算ノ如キ書損ノ如キハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正ヲ爲スヿヲ得ルモノトス故ニ若シ此等ノ如キ誤謬アルヲ奇貨トシテ上告ヲ爲スモ却下セラルヘキモノナリ此ノ更正ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決スルヿヲ得ルモ其申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ許サス是レ前ノ裁判言渡ニ誤謬ナキヿヲ調査ノ上認メタルニ因ル然レトモ若シ更正ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一方ノ權利ニ影響ヲ及スヿアル可キカ故ニ即時ノ抗告ヲ許スナリ

第二百四十二條 主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一部ノ裁判ヲ爲スニ際シ脫漏シタルトキハ申立ニ因リ追加ノ裁判ヲ以テ判決ヲ補充ス可シ

判決ノ言渡後直ニ追加裁判ノ申立ヲ爲ササルトキハ遲クトモ判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ七日ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

追加裁判ノ申立アルトキハ即時ニ又ハ新期日ヲ定メテ口頭辯論ヲ爲サシム可シ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限リ之ヲ爲ス

〔義解〕(二一六) 本條モ亦判決書更正ニ關スルノ規定タリ若シ其レ主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一部ノ裁判ヲ爲スニ當リ其事項ヲ脫漏シタルトキハ申立ニヨリ追加ノ裁判ヲ以テ其判決ヲ補充スルヿヲ得ルナリ此ノ如ク若シ當事者ノ申立タル事項ヲ脫漏シテ裁判ヲ爲シタルトキハ當事者ノ目的ニ反スルヲ以テ其更正ノ申立ヲ許スナリ此ノ判決更正ト上告トヲ同一視ス可ラス判決ノ更正ハ裁

判所ノ過失懈怠ニヨリ申立ノ事項ヲ脱漏シタルカ又ハ著シキ誤謬ヲ來タシタル場合ニ於テ爲スモノナリ之ヲ換言セハ裁判ヲ爲シタル判事ノ意志ニ反スル脱漏誤謬ノ場合ニ於テ更正又ハ追加スルモノナリ然ルニ上告ハ裁判所ノ過失懈怠ニアラス判事ノ意志上誤謬ナシト信シタル判決ニ對シテ爲スモノナリ判決更正ハ事實上ノ點ニ對シテ其裁判所ニ爲スモノナレ𪜈上告ハ法律上ノ點ニ對シテ大審院ニ爲スモノナリ二者ノ區別此ノ如クナルヲ以テ判決ノ更正又ハ追加ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スモ固ヨリ受理セラル可キモノニアラストス

追加裁判ノ申立ハ言渡後直チニ爲スヿヲ要ス然レ𪜈若シ心付スシテ之ヲ爲サヽルキハ遲ク𪜈判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ七日内ニ之ヲ爲サヽル可ラス此ノ申立アリタルキハ即時ニ又ハ更ニ新期日ヲ定メテ口頭辯論ヲ爲サシム可ク然シテ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限リテ之ヲ爲ス可シ決シテ既ニ完結シタル部分ニ入リテ辯論ヲ爲ス可ラサルナリ

第二百四十三條　判決ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ハ判決ノ原本及ヒ正本ニ之ヲ追加シ若シ正本ニ之ヲ追加スルコトヲ得サルトキハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作ルヘシ

〔義解〕《二一七》本條ニ付キテハ別ニ説明ヲ要スルノ點ナシ只一ノ注意ス可キハ判決ヲ更正スル場合ト追加裁判ヲ爲ス場合トハ上訴期限ニ差異アルヿ是レナリ判決ヲ更正スル場合ニ於テハ爲メニ上訴期間ニ影響ヲ及サス追加裁判ノ場合ニ於テハ其追加スル部分ハ未タ曾テ裁判アラサリシモノナルヲ以テ上訴ノ期間ノ經過ヲ延長セシムルヿアルナリ

第二百四十四條　判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有ス

〔義解〕(二一八) 本條ハ判決効力ノ及フ區域ヲ定メタルモノナリ抑判決ヨリ生スル確定力ノ効力ハ主文ニ包含スルモノニ止リテ其事實及ヒ理由ニ及フヿナシ然シテ其確定スル所ノモノハ形式上ト實躰上トニ在リテ判決カ上訴期間等ヲ經過シテ確定スルヤ形式上上訴スルヲ得サルニ至ル又上訴ノ途ナキニ至ルトキハ當事者ノ權利義務確定シテ實躰上敗訴者ハ義務者ト爲リ勝訴者ハ權利者ト爲ルナリ

斯ク二個ノ形躰確定スルトキハ是レヨリ種々ノ効果ヲ生スルナリ即チ左ノ如シ

〔第一　判決確定スルトキハ眞正ト推定セラル

第二　判決確定スルトキハ一事不再理ノ原因ト爲ル

請フ之ヲ略述セン二裁判ト雖モ人爲ニ係ルヲ以テ萬誤リナシト言フ可ラス否法律ハ其誤リアルヿヲ認ムルニヨリ上訴等ヲ許スニ至レリ然レトモ永久誤リアルコトヲ豫想シテ上訴ヲ許ストキハ其權利義務確定セス人々ハ不安ノ中ニ生活シ却テ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ル是レ相當ノ期間ヲ定メテ其裁判ヲ確定セシムル所以ナリ然シテ裁判確定スト雖モ根本上誤リナキヲ保セサルヲ以テ確定判決ニ至ルトキハ法律上眞正ナリト見做サルヽモノナリトス是レ法律ハ既判力ハ眞正ナリト言ハスシテ眞正ナリト推定セラルヽモノナリト記セシ所以ナリ

判決確定スルトキハ一事不再理ヲ以テ同一ノ事件ニ對シ再ヒ訴ヘヲ受クルヿナシ即チ左ノ條件ノ具備シタルトキニ限ル

〔第一　權利又ハ事實ニ關シ爭ノ目的ノ同一ナルヿ

〔第二　主張ノ原因ノ同一ナルヿ

第三　原告被告ノ權利上ノ資格ノ同一ナルヿ

抑爭ノ目的ノ同一ナルヿトハ當事者カ訴ヘヲ起シテ其得ントスル所ノ直接ノ志望ヲ云フ例ヘハ最初ニ貸金一千圓ヲ得ントシテ訴ヘ判決ヲ受ケ其後ニ至リ再ヒ一千圓ノ請求ヲ爲スモ其目的物同一ナルヲ以テ受理セラル可キモノニアラス其原因ノ同一ナルヿトハ目的物ノ因ヲ以テ起リタル所ノ原由ヲ云フ故ニ例ヘハ最初附託物取戻ノ名義ヲ以テ物品ヲ附託シタルヿヲ原因トシテ訴ヘ判決ヲ受ケタル後今度ハ原由ヲ贈與ト爲シ被告ハ恩義ヲ忘却セシニヨリ其贈與ヲ廢罷セント云フトキハ其原因ヲ異ニスルヲ以テ再ヒ訴フルコトヲ得ルナリ此ノ訴訟ノ原由ト其原由ヲ組成スル論辯ノ方法トハ決シテ之ヲ混同ス可ラス訴訟ノ目的トハ要求スル所ノ志望ヲ云ヒ原由トハ其志望ヲ生スル所ノ事實即チ基本ヲ云ヒ論辯ノ方法トハ訴訟ノ原由ヲ組成スル所ノ原由ヲ云フナリ或ル人ハ左ノ一例ヲ揭ケテ此ノ區別ヲ明確ニ爲サントセリ曰ク人アリ承諾ノ瑕瑾ヲ以テ契約ノ取消ヲ求ムルニ當リ其相手方ニ對シ詐欺ヲ行ヒタル旨ヲ述ヘテ論辯ノ方法ト爲シ遂ニ敗訴ヲ取リタリ然ルニ其後更ニ自己ノ錯誤ニ出テタル旨ヲ以テ論辯ノ方法ト爲スモ二個ノ訴訟前後共ニ承諾ノ瑕瑾ヲ以テ取消ノ原由ト爲スカ故ニ再度ノ訴訟ハ却下セラル可キモノナリト然レトモ此ノ說タル未タ肯綮ヲ盡シタルモノト言フヲ得ス其レ詐欺ト云ヒ錯誤ト云ヒ共ニ承諾ニ瑕瑾アルモノナリト雖モ二者各其事實ヲ異ニセサルヲ得ス去レハ契約ヲ取消サントスルニ當リ錯誤ヲ以テ其原由ト爲サハ契約ノ物質上ニ在テ錯誤ヲ爲シタル旨ヲ證明セサル可ラス然シテ詐欺ヲ以テ其原由ト爲ストキハ如何ナル程度ニ至ル迄ヲ證明セサル可ラサルカト云フニ其詐欺契約ノ遠因上ニ在ルトキト雖モ取消ノ原由ト爲スヲ得ル

ナリ然レハ則チ錯誤詐欺暴行ハ皆取消ノ効力上ニ差異アルヲ以テ同一ノ論辯方法ト爲ス可キモノニアラサルナリ故ニ最初ニ詐欺ヲ原由トシテ契約ノ取消ヲ訴ヘ後暴行ヲ原由トスルトキハ其訴訟ノ原由同一ナラサルヲ以テ受理セラル可キモノナリトス訴訟人ノ同一トハ資格ノ同一ナルヿヲ云フ例ヘハ幼者ノ後見人余ニ對シテ訴訟ヲ爲シ遂ニ敗訴セリ後其幼者丁年ニ至リ再ヒ同一ノ訴訟ヲ起スト雖モ却下ス可キモノトス是レ前後其人ヲ異ニスト雖モ訴訟人ノ資格ハ前後同一ナレハナリ

○判決効力ノ及フ可キ區域ニ付キ重要ナル問題アリ參考ノ爲メ左ニ之ヲ掲ク可シ

第一　判決ノ効力ハ通常ノ場合ニ於テ判決ノ言渡ヲ受ケタル原被告及ヒ其權利相續人即チ物件ノ拘束ヲ受ケタル後原被告ノ一方ヨリ其物件ヲ獲得シタル者ニノミ及フモノトス然レトモ其効力ハ又一定ノ限度ニ於テ補助參加人及ヒ訴訟告知ヲ受ケタルモノニ及ヒ又時トシテハ訴訟法及ヒ倒産法ノ規定ニ從ヒ或ハ民法ノ規則ニ從ヒ例外トシテ全ク訴訟ニ關係セサル第三者ニモ及フコトアリ然レトモ通常ノ場合ニ於テハ訴訟人ノ相續人及ヒ裁判言渡以後ニ其訴訟ニ關スル財産ヲ讓受ケタル者ノミ其効力ヲ及ホス可キモノトス此ノ原則ヨリ種々ノ問題ヲ決定スルコトヲ得可シ

第二　權利者ハ負債主ノ敗訴シタル判決ヲ以テ他ノ信用貸債權者ニ對抗スルヿヲ得可シ蓋シ負債主ノ財産ハ權利者ノ質物ナリトノ原則アレトモ信用貸ノ債權者ノ權利ハ未タ確定不動ノモノニアラス然レトモ既ニ裁判言渡ニ依テ勝利ヲ得タル者ハ其權利確的ノ

モノト爲ルヲ以テ普通ノ權利者ニ對シ優先ノ權利ヲ有スルヿ當然ナリトス

第三　負債者ニ對シテ得タル勝訴ノ判決ヲ以テ直チニ保證人ヲ拘束スルヿヲ得ルヤト云フニ其保證人參加者ト爲リ又ハ告知ヲ受ケタルトキハ共ニ其効力ヲ受ケサル可ラスト雖モ然ラサル場合ニ於テハ其判決ヲ以テ保證人ヲ拘束スルヿヲ得ス

第四　連帶義務者ノ一人ニ對シテ得タル勝訴ノ判決ヲ以テ他ノ共同義務者ヲ拘束スルヿヲ得ルカト云フニ是レ又訴訟ニ關係セサル義務者ヲ拘束スルヿヲ得ス蓋シ連帶義務者ノ責任モ彼ノ保證人ヨリ重大ナルコトナカル可キナリ

第二百四十五條　口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第二百三十三條第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之ヲ準用シ又第二百三十五條第二百三十九條及ヒ第二百四十條ノ規定ハ裁判所ノ決定及ヒ裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ニ之ヲ準用ス

言渡ヲ爲ササル裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲ササル裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可シ

〔義解〕（二一九）本條ハ裁判所ノ決定及ヒ命令ニ適用ス可キ法條ナリ口頭辯論ニ基キテ爲ス所ノ裁判所ノ決定ハ判決ト同シク之ヲ言渡スヿヲ要ス是レ口頭辯論ヲ開キタルトキハ通常ノ裁判言渡ト更ニ異ナルコトナキニ因ルナリ然リ而シテ言渡ヲ爲ス裁判所ノ決定ハ口頭辯論

ノ終結セシ期日又ハ指定スル期日ニ於テ七日以内ニ之ヲ言渡サヽル可ラス其言渡ヲ爲ストキニ於テハ判決主文ノ朗讀ニ因リテ之ヲ言渡スコトヲ得ルナリ又決定命令ヲ爲ストキニ於テハ當事者ノ出廷スルト否トヲ問ハス有効ナリトス又當事者ハ其決定命令ノ正本謄本抄本等ヲ求ムルヿヲ得ルナリ

裁判所ノ命令決定モ亦判決ト同シク之ヲ決定命令シタル以上ハ其裁判所ハ之レニ羈束セラルヽモノナリ若シ又言渡ヲ爲サヽル決定命令ニ係ルトキハ當事者ハ之ヲ知ラサルニヨリ之ヲ當事者ニ送達セサル可ラサルナリ

第三節　闕席判決

〔義解〕(二二〇)闕席判決トハ當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ出頭セサルカ又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サスシテ退キタルトキニ於テ終局ノ言渡ヲ爲ス判決ヲ云フ欠席判決ハ事件ノ延滯ヲ防クカ爲メニ已ムヲ得スシテ設ケタルモノニシテ對席判決ニ對スル例外ノ制度ナリトス此ノ欠席判決ヲ爲サンニハ左ノ三條件ヲ要ス

第一　當事者ノ間權利拘束ノ狀態ニ至リタルヿ

第二　口頭辯論期日ヲ相手方ニ通知シタルノ證アルヿ

第三　當事者ノ一方欠席スルカ又ハ辯論ヲ爲サヽルヿ

此ノ三條件ヲ具備セスンハ未タ欠席裁判ヲ構成セサルモノトス抑〻未タ權利拘束ノ狀態ニ至ラスンハ訴訟アリト云フヿヲ得サルニ付キ固ヨリ欠席裁判ヲ爲スヿヲ得サルナリ又口頭辯論ノ期日ヲ通知シタルノ證アルニアラスンハ未タ懈怠シタルモノト言フヲ得サルニヨリ欠席判決ヲ爲スヿヲ得ス又假令訴狀ヲ相手方ニ於テ受取リタルコトナク口頭辯論期日ノ通知ヲ受ケタルコトナキモ自ラ之ヲ知リテ辯論期

日ニ出頭シ以テ辯論ヲ爲シタルトキハ對席判決ヲ言渡スコトヲ得ルナリ又假令辯論期日ニ出頭スルト雖モ辯論ヲ爲サス默シテ退キタルトキハ法律上有効ノ辯論アリタルモノト見做サヽルニヨリ欠席判決ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第二百四十六條　原告若クハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲ス

第二百四十七條　出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ」

第二百四十八條　出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當ト爲ストキハ

正誤

第八冊第八百十九頁第二百四十九條ノ次ヘ左ノ正條ヲ搜入セサル可ラサルニ植字ノ誤リニテ之ヲ遺脫セリ但シ正條ヲ遺脫シタルノミニシテ解釋ハ之ヲ爲シアルヲ以テ之ヲ茲ニ贅セス

第二百五十條　原告若クハ被告出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタルトキハ出頭セサルモノト見做ス

右ノ一條ヲ插入スルトキハ從テ第二百五十條トアルハ第二百五十一條ノ誤リ以下第二百六十八條迄一條ツヽ繰下ケト相成ル義ニ付キ看官諸君之ヲ諒セヨ

日ニ出頭シ以テ辯論ヲ爲シタルトキハ對席判決ヲ言渡スコトヲ得ルナリ又假令辯論期日ニ出頭スルト雖モ辯論ヲ爲サス默シテ退キタルトキハ法律上有効ノ辯論アリタルモノト見做サヽルニヨリ欠席判決ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第二百四十六條　原告若クハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲ス

第二百四十七條　出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ」

第二百四十八條　出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當ト爲ストキハ闕席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求ヲ正當ト爲ササルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百四十九條　延期シタル口頭辯論ノ期日又ハ口頭辯論ヲ續行スル爲ニ定ムル期日モ亦第二百四十六條ノ辯論期日ニ同シ

第二百五十條　原告若クハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ各箇ノ事實證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退延スルモ本節ノ規定ヲ適用セス

〔義解〕(二二一)當事者ノ一方ニシテ口頭辯論期日ヲ承知シナカラ出頭セサル場合ニ於テハ懈怠アルモノトシテ其出頭シタル一方ノ申立ニ因リ欠席ノ儘裁判ヲ與フルヿヲ得ルナリ欠席判決ヲ爲サヽニハ必

スシモ一方ノ申立アルヿヲ必要トス若シ其出頭シタル者ニ於テ欠席判決ノ請求ヲ爲サヽルトキハ合意ヲ以テ辯論期日ヲ延ハシタルモノト見做シ裁判所ハ新期日ヲ定ムル迄辯論ヲ延ハスモノナリ其レ然リ一方ノ申立アルトキハ必ス辯論期日ヲ延ハスモノナレトモ假令一方ノ申立アルモ裁判所ノ見込ミニ於テ必スシモ欠席判決ヲ爲セヨト言フニアラス即チ欠席シタルノ事由ニシテ故意ニ訴訟ヲ遲延セシムルノ形狀ナク已ムヲ得サルノ欠席ナリト認ムルトキハ欠席判決ヲ爲サヽルヲ得可シ

裁判所ニ於テ一方ノ申立ニ因リ愈〻欠席判決ヲ爲サヽントスルトキハ如何ナル區別ニ依テ之ヲ爲スカ即チ左ノ區別ニ依テ之ヲ爲スモノナリ

第一　出頭セサル一方カ原告ナルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡スモノトス　是レ自己ノ懈怠ニ因リテ欠席シタルハ其請求ヲ拋棄シタルモノト見做スニ因ルナリ

第二　出頭セサル一方カ被告ナルトキニ於テ原告ノ請求至當ナルトキハ被告敗訴ノ言渡ヲ爲ス　是レ被告カ懈怠ニ因リテ欠席シタルハ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト見做スモノナレハナリ

第三　被告ノ欠席シタル場合ト雖モ原告ノ請求正當ナラサルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡スモノトス　欠席裁判ト雖モ必スシモ欠席者ヲ敗訴ト爲セヨト言フニアラス書面若クハ口頭ニ付キ事實ヲ審理シタル後原告ノ請求不當ナルトキハ假令被告ノ欠席シタルトキト雖モ原告ノ訴ヲ却下セサル可ラサルナリ

法律ノ精神ニ於テハ只ニ出頭セサル原告被告ヲ目シテ欠席者ト云フニアラス假令出頭スルモ辯論ヲ爲サヽルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任

意ニ退廷シタルトキハ出頭セサルモノト看做スモノナリ然リ而シテ辯論トハ議論ヲ爲スノ謂ヒニアラスシテ事實ノ供述ヲ爲シ且ツ相手方ノ主張ニ對シテ認諾セサル意志ノ見ユルヲ以テ足レリト爲スナリ故ニ既ニ原告若クハ被告カ本案ニ付キ供述ヲ爲シタルトキハ各個ノ事實證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷スルモ欠席判決ヲ爲スノ限リニアラス各箇ノ事實ニ付キ認諾ヲ表シタルヤ否ヤヲ審理シテ判決ヲ爲ス可キモノトス

第二百五十一條　左ノ場合ニ於テハ闕席判決ノ申立ヲ却下ス然レトモ出頭シタル原告若クハ被告ハ口頭辯論ノ延期ヲ申立ツルコトヲ得

第一　出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査ス可キ事情ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ

第二　出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルトキ

辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出ス可シ

第二百五十二條　闕席判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得又其決定ヲ取消シタルトキハ出頭セサリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サスシテ闕席判決ヲ爲ス

第二百五十三條　裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スルコト

ヲ得

第一　出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ

第二　出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避ク可ラサル事變ノ爲メニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ム可キ事情アルトキ

出頭セサリシ原告若クハ被告ハ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

〔義解〕(二二二)　當事者ノ一方出頭セスト雖モ必スシモ欠席判決ヲ爲ス可キニアラサルヿ既ニ述ヘタル所ナリ其場合ニ二種アリ第一ハ欠席判決ノ申立ヲ却下スル場合第二ハ欠席判決ノ申立ニ付テ辯論ヲ延期スル場合是レナリ左ノ場合ニ於テハ欠席判決ノ申立ヲ却下スルモノトス

第一　裁判所ノ職權上調査ス可キ事情ニ付キ當事者カ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルキ　凡ソ訴訟ノ提起アルヤ裁判所ハ職權上調査ス可キノ事項アリ例ヘハ此ノ訴訟ハ無訴權訴訟ノ種類ニ屬セサルモノナルヤ裁判所ノ專屬管轄ノ定規ニ背戻セサルヤ訴訟能力上ニ欠缺ナキヤ否ヤ等ハ皆職權上取調フ可キ事項ナリトス若シ此等事情ノ存スルトキハ出頭シタル者ニ向ヒ證明ヲ爲ス可キコトヲ命シ其證明ヲ爲スコト能ハサルトキハ欠席判決ヲ爲スコト能ハサルニヨリ其申立ヲ却下スルナリ蓋シ右等事情ノ存スル場合ニ於テ强ヒテ欠席判決ヲ爲スモ無効ニ屬スルモノナレハナリ

第二　出頭セサル當事者ノ一方ニ書面ヲ以テ通知セサルキ　欠席

決判ハ權利拘束ノ狀態ニ至リテ初メテ之ヲ爲シ得ルモノナリ然ルニ未タ權利關係ノ事實ヲ出頭セサル者ニ通知セサルトキハ此ノ者ハ曾テ訴訟ノ提起アルヿヲ知ラサルニ因リ欠席判決ノ原因ト爲ラサルナリ

以上二個ノ場合ニ於テハ欠席判決ノ申立ヲ却下スルヿヲ得ルナリ然シテ其申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヿヲ得若シ又其決定ヲ取消サレタルトキハ出頭セサリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サスシテ欠席判決ヲ爲ス可キモノトス然レトモ辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出スヲ以テ通例ト爲ス左ノ場合ニ於テハ勢ヒ欠席判決ニ付テノ辯論ヲ延期セサル可ラサルモノトス

第一　欠席者カ合式ニ呼出サレサルトキ　合式ニ呼出サレサルトキハ呼出ヲ受ケサルト同一ナルヲ以テ欠席判決ヲ爲スヿヲ得ス是レ裁判所書記若クハ執達吏等ノ不注意ニ出ツルモノナレハ其欠席者ヲ咎ムルヿヲ得サルナリ

第二　欠席者カ天災其他事變ノ爲メニ出頭スル能ハサルトキ　此ノ場合モ亦已ムヲ得サルノ事ナルヲ以テ欠席者ニ懈怠アリト言フヿヲ得サルナリ

此ノ場合ハ裁判所カ職權ヲ以テ爲スモノナレハ假令辯論ヲ延期スト雖モ不服ヲ申立ツルヿヲ許サス斯ク辯論ヲ延期シタルトキハ其欠席者ヲ新期日ニ呼出シテ辯論ヲ爲サシム可キモノトス

第二百五十四條　闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニ

シテ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マル

故障申立ハ判決ノ送達前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得」

外國ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲ス可キトキハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間ヲ定メ又ハ後日決定ヲ以テ之ヲ定ム此決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得

〔義解〕(二二三) 本條ハ欠席判決ニ對シテ故障ノ申立ヲ爲スヿヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ故障トハ裁判ノ仕直シヲ請求スルノ申立ヲ云フ法律ハ何故ニ故障ノ申立ヲ許シタルカ曰ク裁判ハ素ト雙方ノ陳述ヲ聞キタル後ニアラスンハ至當ノ判決ヲ下スヿヲ得ス俗諺ニ曰ク片言ヲ聞テ公事裁クナト欠席判決ハ片言ヲ聞キテ爲スモノナリ故ニ其判決固ヨリ不完全タルヲ免レス法律モ亦其不完全ナルヿヲ認ムルモノナリ是レ至當ノ判決ヲ爲スカ爲メニ相當ノ期間ヲ定メテ故障ヲ許ス所以ナリ然レトモ此ノ法タル欠席者ニ取リテハ非常ノ恩典ト言ハサル可ラス何トナルニ欠席判決ヲ受クルニ至リタルモノハ素ト自己ノ懈怠ニ因リテ然ルナリ然ルニ自己ノ過失アルニモ係ハラス如何ナル場合ニ於テモ一度ハ必ス故障ヲ爲スヿヲ得ルモノナリ故ニ或ハ狡猾ナル原告若クハ被告ハ故ラニ欠席判決ヲ受ケ義務ノ辨濟ヲシテ遲延ナラシムル爲メ故障ヲ申立ツルヿアルニ至ル可シ此ノ如キ不都合ノ生スルヿアル可キヲ以テ學者或ハ故障申立ニモ原由ヲ定メテ一定ノ事由ヲ備フニアラスンハ故障ノ申立ヲ許ス可ラスト論スル者アリ是レ至當ノ事ナル可シ我カ訴訟法ハ如何ナル事由タルヲ問ハス最初ノ欠席判決ニ對シテハ十四日内ニ故障ノ申立ヲ許スモノトセリ尤モ此ノ十四日ノ期間ハ不變期間ナルヲ以テ原狀回復ノ事由ヲ備フルニア

ラスンハ經過ノ後回復スルヿヲ得サルモノトス

故障期間ハ通例十四日ト爲スト雖モ外國ニ於テ送達ヲ爲ス可キ場合ノ如キ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲ス可キ場合ノ如キハ決定ヲ以テ稍長期ノ期間ヲ定ムルヿヲ得ルナリ然シテ此ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヿヲ得ルモノナリトス

第二百五十六條　故障申立ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲ス

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示

第二　其判決ニ對スル故障ノ申立

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキハ亦之ヲ掲ク可シ

第二百五十七條　判然許ス可ラサル故障又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル故障ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ

第二百五十七條　前條ノ場合ヲ除ク外裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ且故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定メ當事者ノ雙方ヲ呼出ス可シ

第二百五十八條　裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障ヲ申立テタルヤ否ヤヲ調査ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ不適法トシテ棄却ス

〔義解〕（二二四）故障ハ欠席判決ヲ取消シ其辯論ヲ聽キタル後更ニ裁

判アランコトヲ要スルモノナレハ控訴トハ其性質ヲ異ニスルモノナリ故ニ故障ハ欠席裁判ヲ爲シタル裁判所ニ提出スルヲ相當ト爲ス故障ヲ申立テントスルトキハ左ノ諸件ヲ具備シタル書面ヲ提出スルヲ要ス

第一　故障ヲ申立テラレタル欠席判決ノ表示

第二　其判決ニ對スル故障ノ申立

此ノ二條件ヲ具備シタル書面ニアラスンハ方式ニ適セサルモノトシテ却下スルコトヲ得ルナリ只ニ故障申立ノ理由ノミナラス本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲メニ必要ナル事項モ之ヲ掲ク可シ然レトモ此ノ事項ハ申立書ニ掲ケスト雖モ素ト聽任法ニ屬スルヲ以テ方式ニ適セスト云フコトヲ得サルナリ

故障ハ如何ナル事由タルヲ問ハス一度ハ必ス其申立ヲ爲シ得ルモノナリト雖モ又自ラ制限ナキ能ハス即チ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下スルコトヲ得ルナリ

第一　判然許ス可ラサル故障ナルトキ　決定ニ對シテ故障ヲ爲スカ又ハ欠席判決ニアラサル判決ニ對シテ故障ヲ爲スカ又ハ原狀回復ノ申立ニ對スル裁判ニ向テ故障ヲ爲スカ二度目タル新欠席判決ニ對シテ故障ヲ爲ストキ等ニ於テハ判然許ス可ラサルモノナルヲ以テ之ヲ却下ス可キモノトス

第二　判然法律上ノ方式ニ適セサルトキ　第二百五十六條ニ定メタル要件ヲ欠キタルトキハ方式ニ適セサルモノナルヲ以テ之ヲ却下ス可キモノトス

第三　期間ノ經過後ニ提出シタル故障ナルトキ　此ノ場合モ亦明瞭ノ事由ナリトス

以上三個ノ場合ニ於テハ第二百五十九條ニ因リ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キモノナルヤ否ヤヲ調査スルノ權アリ若シ故障ヲ不適法トシテ却下セラルヽ場合ニ於テハ即時抗告ヲ爲スヿヲ得ルナリ若シ又故障申立ヲ適法ナリトシテ受理シタルトキハ裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ且ツ故障アリタルニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定メ以テ當事者ヲ呼出ス可シ是レ第二百五十八條ノ規定ナリ

第二百五十九條 故障ヲ適法トスルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復ス

第二百六十條 新辯論ニ付キ爲ス可キ判決カ闕席判決ト符合スルトキハ闕席判決ヲ維持スルコトヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄ス

〔義解〕(二二五) 故障ヲ適法ナリトシテ受理シタル以上ハ凡ヘテ欠席前ノ程度ニ復スルヲ以テ其中間ノ訴訟手續ハ消滅ニ歸ス恰モ原狀回復ニ依テ訴訟手續ヲ回復シタルト同一ナルヲ以テ曾テ欠席判決ノナカリシモノト爲ルナリ其レ然リ故障ノ申立ヲ受理シタルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メサルヿヲ以テ其辯論期日ヲ定メ雙方ヲ呼出シ審問ヲ爲シタル後曾テ爲シタル欠席判決ト符合スルノ判決ヲ得タルトキハ欠席判決ヲ維持スルヿヲ言渡シ若シ又符合セス新タノ辯論ニ依テ判決ノ基本ヲ動シタルトキハ新判決ヲ以テ欠席判決ヲ廢棄シ更ニ判決ヲ爲ス可キモノトス此等ノ事項ニ付キテハ別ニ說明ヲ要スルヿナシ

第二百六十一條 法律ニ從ヒ闕席判決ヲ爲シタルトキ闕席ニ依リテ生シタル費用ハ相手方ノ不當ナル

異議ニ因リ生セサルモノニ限リ故障ノ爲メ闕席判決ヲ變更スル場合ニ於テモ其闕席シタル原告若クハ被告ニ之ヲ負擔セシム

第二百六十二條　故障ヲ申立テタル原告若クハ被告口頭辯論ノ期日又ハ辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ第二百五十二條及ヒ第二百五十四條ニ規定シタル場合ヲ除ク外出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ故障ヲ棄却スル新闕席判決ヲ言渡ス

新闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス」

〔義解〕(二二六)第二百六十二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ヲ爲サシメンニハ左ノ條件ノ具備スルヿヲ要ス

第一　法律ニ從ヒ欠席判決ヲ爲シタルヿ

第二　相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生シタルモノニアラサルヿ

此ノ二條件ヲ具備スルニ於テハ欠席判決ヲ變更シタル場合ニ於ケル勝訴者ニ費用ヲ負擔セシムルヿヲ得ルナリ新判決ニ因リテ勝訴者ト爲リタルニモ係ハラス費用ヲ負擔セサルヲ得サル所以ノモノハ如何ナル理由ナルヤ曰ク欠席判決ヲ變更シタル場合ニ於ケル勝訴者ハ最初自己ノ懈怠ニ因テ欠席判決ヲ受クルニ至リタルモノナリ然シテ故障ノ申立ヲ爲シ勝訴者ト爲リタリト雖モ其費用ノ增加ヲ爲シタル者ハ最初ノ懈怠者ナルヲ以テ此ノ者カ其費用ヲ負擔スルハ當然ナリトス然レトモ欠席判決ニシテ若シ法律ニ違背シテ爲シタルヿアリトセンカ是レ其費用ヲ負擔スルニ及ハサルナリ又相手方カ不當ノ異議ヲ述ヘテ費用ノ增加ヲ來シタルモノトセンカ是レ其欠席者ノ罪ニアラサルヲ以テ其費用ヲ負擔スルニ及ハサルナリ例ヘハ相手方カ其故障ノ

申立ハ不當ナリト述ヘテ爲メニ費用ノ增加シタル場合ノ如キ是レナリトス

第二百六十三條ハ再度ノ欠席判決ニ對シテハ故障ノ申立ヲ許サヽルヿヲ規定シタルモノナリ即チ故障ヲ申立テタル原告若クハ被告ニシテ其辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ欠席判決ヲ却下スル場合ト職權上調査ヲ爲ス可キ場合トヲ除クノ外出頭シタル者ノ申立ニ因リ故障ヲ棄却スル判決ヲ爲ス可キモノトス然シテ懈怠ノ處爲ヲ二度重ヌルトキハ最早ヤ宥恕ス可キノ點アラサルヲ以テ故障ノ申立ヲ許ス可キニアラサルナリ

第二百六十三條　故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テノ規定ヲ準用ス

第二百六十四條　本節ノ規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ定ヲ目的物トスル訴訟手續ニ之ヲ準用ス

中間訴訟ノ辯論ノ爲メ期日ヲ定メタルトキハ其闕席訴訟手續及ヒ闕席判決ハ其中間訴訟ヲ完結スルニ止リ本節ノ規定ヲ之ニ準用ス

〔義解〕（二二七）故障ノ拋棄及ヒ取下ニ就テ控訴ノ拋棄及ヒ取下ニ就テノ規定ヲ適用スル所以ノモノハ故障モ不服ヲ申立ツルノ一種ナルヲ以テナリ然シテ故障ヲ取下ケタルトキ及ヒ拋棄シタルトキハ前欠席判決ハ茲ニ確定スルモノナリトス

本節ノ規定ハ只ニ一方ヨリノ請取ニ係ル場合ノミナラス反訴ヲ起シタル場合又原因ノ既ニ確定シタル請求ノ數額ノ定メヲ目的トスル訴訟手續ニモ適用スルモノナリ即チ一分ノ判決ニ係ル場合ニ於テモ亦

欠席判決ヲ爲シ得ルモノトス又中間訴訟ノ辯論ノ爲メニ期日ヲ定メタル場合ニ於テ其期日ニ欠席シタルトキハ其中間訴訟ノ完結ヲ爲スニ止リテ其本案ノ訴訟ニ影響ヲ及スヿナシ故ニ中間訴訟ハ欠席ニシテ終局判決ハ對席ナル場合ヲ生スルニ至ル可シ

今本節ノ條項ヲ說キ了ルニ臨ミ故障ト控訴トノ差異ヲ示ス可シ

第一　故障ハ欠席裁判ニ對シテ申立ツル格段ノ所爲ナレトモ控訴ハ對審裁判ニハ普通ノ所爲ニシテ例外ノ場合ニ在テハ欠席裁判所ニ對シテモ控訴ヲ許スナリ

第二　故障ハ欠席裁判ヲ爲シタル裁判所ニ提出スルモノナリ控訴ハ第一審ノ裁判所ヨリ上級ノ裁判所ニ提出スルモノナリ

第三　故障ハ敗訴者ニアラスンハ爲スヲ得スト雖モ控訴ハ勝訴者ト雖モ不服ノ點アルニ於テハ提出スルヲ得ルナリ

第四　故障ノ期間ハ十四日ナリト雖モ控訴ノ期間ハ三十日ナリトス

第五　故障ハ其性質再審ノ方法ニ屬スルモノナリ控訴ハ覆審ノ方法ニ屬スルモノトス

第四節　計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續

第二百六十五條　計算ノ當否財産ノ分別又ハ此ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ニ於テ計算書又ハ財産目錄ニ對シ許多ノ爭ヒアル請求ノ生シ又ハ許多ノ爭アル異議ノ生シタルトキハ受訴裁判所ハ受命判事ノ面前ニ於ケル準備手續ヲ命スルコトヲ得

第二百六十六條　準備手續ヲ命スル決定ヲ言渡スニ

際シ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ決定施行ノ期日ヲ定ム可シ若シ裁判長此期日ヲ定メサルトキハ受命判事之ヲ定ム又受命判事其委任ヲ施行スルニ差支アルトキハ裁判長更ニ他ノ判事ヲ任ス

〔義解〕(二二八) 本節ニ於ケル本條以下ハ事件審理ノ錯雜ヲ避クルカ爲メニ特別ノ手續ヲ定メタルモノナリ計算ノ當否トハ社員若クハ管理人ノ爲シタル計算ハ正當ナルヤ否ヤ財産分別トハ例ヘハ遺存ノ配偶者ト死亡シタル配偶者ノ相續人トノ間ニ於ケル財産分別ニ關スル爭ヒノ如キ又數多ノ物品引渡ニ關スル爭ヒノ如キヲ云フ此等ノ訴ヘヲ地方裁判所ニ提出シタルトキハ妨訴ノ抗辯完結シタル後申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其後ノ口頭辯論ヲ延期シテ受命判事ニ訴訟ノ準備ヲ命スルヿヲ得ルナリ素ト此ノ手續ハ特別法ニ屬スルヲ以テ只訴訟ニ係ル請求又ハ計算或ハ目錄ニ關スル爭點許多ニシテ通常手續ヲ適用スルノ不便ナルトキニ限リ之ヲ用ユルヿヲ得ルナリ

此ノ準備手續ヲ命スルノ言渡ヲ爲ストキハ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ該決定施行ノ期日ヲ定ム可シ若シ裁判長ニシテ此ノ期日ヲ定メサルトキハ受命判事ニ於テ之ヲ定メサル可ラス又受命判事ノ委任權限ニシテ該期日等ヲ施行スルニ差支アル場合ニ於テハ裁判長更ニ他ノ判事ニ命シテ之ヲ定メシム可キモノトス

第二百六十七條　準備手續ニ於テハ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ニス可シ

第一　如何ナル請求ヲ爲スヤ及ヒ如何ナル攻擊防禦ノ方法ヲ主張スルヤ

第二　如何ナル請求及ヒ如何ナル攻擊防禦ノ方

法ヲ爭フヤ又ハ之ヲ爭ハサルヤ

第三　爭ト爲リタル請求及ヒ爭ト爲リタル攻擊防禦ノ方法ニ付テハ其事實上ノ關係及ヒ當事者ノ表示シタル證據方法並ニ證據抗辯ニ關シテ爲シタル陳述及ヒ提出シタル申立

此手續ハ受訴裁判所ニ於テ訴訟又ハ中間訴訟カ判決又ハ證據決定ヲ爲スニ熟スルマテ之ヲ續行ス可シ

〔義解〕（二二九）素ト本節ノ準備手續ニ依ラサルヲ得サル事件ノ如キハ一目シテ事件ノ經過及ヒ終局ヲ知リ得可ラサルモノナリ故ニ本節ノ規定ニ從テ爲ス所ノ準備手續ノ調書ニハ明確ニ其手續ヲ記スルヿヲ要ス即チ其記ス可キ條々ハ左ノ如シ

第一　請求ノ性質種類ヲ記スルヿヲ要ス例ヘハ人權ノ請求ナルヤ將タ物權ノ請求ナルヤ代替物ナルヤ不代替物ナルヤ等ヲ明カニ記スルヲ要ス

第二　攻擊防禦ノ方法ヲ記スルヿヲ要ス即チ原告ハ如何ナル攻擊方法ヲ提出シタルヤ被告ハ如何ナル防禦方法ヲ提出シタルヤ其方法ヲ悉ク明記セサル可ラス

第三　爭點ト爭點ニアラサルモノトヲ明確ニ記スルヿヲ要ス即チ被告ハ原告主張ノ點ニ向テ悉ク爭フヤ將タ一部分ナルヤ又數箇ノ攻擊防禦ノ方法中如何ナル方法ニ對シテハ爭ヒト爲リシヤ又爭ヒト爲ラサル方法ハ之レアリヤ否ヤ等ヲ記セサル可ラス

第四　本條第三號ニ掲クル攻擊防禦ノ方法ニ付テハ其事實上ノ關

係ヲ記セヨトハ即チ原被主張ノ因リテ起リタル事實上ノ關係ヲ記スルヲ云ヒ其他當事者ハ此ノ事實ニ對シテ如何ナル證據方法ヲ提出シタルヤ又其提出ノ證據方法ニ對シテ如何ナル抗辯ヲ爲シタルヤ等ヲ明カニ記シ且ツ其申立ノ事項ヲ明瞭ニ記載セサル可ラサルナリ

此ノ準備手續ハ明確ニ訴訟ノ終結ヲ告ケンカ爲メニ爲スモノナレハ一タヒ此ノ手續ニ着手スルヤ受訴裁判所ニ於テ訴訟又ハ中間訴訟ニ付キ判決又ハ證據決定ヲ爲スニ熟スル迄之ヲ續行ス可キモノトス故ニ本案ニ對シテ終局判決ヲ爲スカ又ハ中間判決ヲ爲スカ又ハ證據決定ヲ爲スニ至ルトキハ最早ヤ準備手續ハ無用ニ屬スルノ時ナルヲ以テ其手續ヲ中止シテ證據決定又ハ判決ニ讓ラサル可ラサルナリ

第二百六十八條　原告若クハ被告カ期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セサルトキハ受命判事ハ前條ノ規定ニ依リ調書ヲ以テ出頭シタル原告若クハ被告ノ提供ヲ明確ニシ且新期日ヲ定メ出頭セサル原告若クハ被告ニハ調書ノ謄本ヲ付與シテ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

原告若クハ被告カ新期日ニモ亦出頭セサルトキハ送達セシ調書ニ掲ケタル相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタリト看做シ其主張ニ付テノ準備手續ハ完結シタルモノトス

〔義解〕(二三〇) 本條ハ自白シタルモノト見做ス可キ場合ノ一種ヲ掲ケタルモノナリ原告若クハ被告カ準備手續ノ期日ニ出頭セサルトキハ受命判事ハ其出頭シタル者ノ提供ヲ明確ニ爲シ之ヲ第二百六十八條

ニ由リテ調書ニ認メ更ニ新期日ヲ定メテ其欠席者ヲ呼出ス可キモノトス尤モ其新期日ヲ定メテ更ニ呼出ス場合ニ於テハ其辯解ヲ爲サシムル爲メニ出頭シタル者ノ提供ニ係ル調書ノ謄本ヲ付與ス可シ元來普通法ヨリ言フトキハ判事ノ指定シタル期日ニ出頭セサルトキハ懈怠者ト見做シ以テ欠席ノ儘ニ調書ヲ作リ之ヲ眞正ノ調書ト爲スヿヲ得可キモノナリ然レ𪜈此ノ準備手續ノ場合ニ於テハ直チニ之ヲ欠席者ト見做シテ相手方ノ主張ヲ自認シタルモノトセス尙ホ其更ニ指定シタル新期日ニ出頭セサルヽ初メテ相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノト見做スモノナリ是レ他ナシ素ト準備手續ハ例外ニ屬スルモノナルヲ以テ可成的當事者ノ雙方ノ陳述ヲ聞キテ明確ナル調書ヲ得ンカ爲メナリ然レ𪜈其出頭シタル者ノ謄本ヲ附與シ辯解ヲ爲サシムル爲メニ更ニ期日ヲ定メテ呼出スニモ係ハラス又モ出頭セサル場合ニ於テハ實躰上其謄本ニ記シタル主張ヲ自認シタルモノト見做スハ至當ノ事ナリ

第二百七十條　受訴裁判所ハ準備手續ノ終結後ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知ス可シ

第二百七十一條　當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ調書ニ基キ演述ス可シ

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ準備手續ニ於テ爭ハサル請求ハ一分判決ヲ以テ之ヲ完結ス其他ニ付テハ申立ニ因リテ闕席判決ヲ爲ス可シ

〔義解〕(二三一) 準備手續ノ完結スルヤ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知シテ辯論廷ヲ開クヲ順序トス然シテ當事者ハ假令準備手續ニ於テ既ニ充分事實上ノ主張ヲ爲シタリト雖モ尙ホ辯論期日ニ於

アハ準備手續ノ調書ニ基キ事實上ノ關係及ヒ法律上ノ理論ヲ演述セサル可ラス若シ口頭辯論期日ニ於テ欠席シタル者アルトキハ準備手續ニ於テ雙方爭ハサル部分ニ限リ一部ノ終局判決ヲ以テ之ヲ完結シ其他ノ部分ニ付テハ申立ニ因リ欠席判決ヲ爲スヿヲ得可シ此ノ欠席判決ニ付テハ通常ノ欠席判決ニ於ケル規則ヲ適用スルモノトス

第二百七十二條　受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニス可キ事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒ミタルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ追完スルコトヲ得ス

請求攻擊若クハ防禦ノ方法證據方法及ヒ證據抗辯ニシテ受命判事ノ調書ヲ以テ之ヲ明確ニセサルモノニ付テハ後日ニ至リ始メテ生シ又ハ後日ニ至リ始メテ原告ノ知リタルコトヲ疏明スルトキニ限リ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得」

〔義解〕（二三二）本條第一項ハ追完ヲ許サヽル場合ヲ定メタルモノナリ其レ受命判事ハ準備手續ニ關シテ一切ノ專權ヲ有スルモノナリ故ニ受命判事ヨリ陳述セヨト命令セラレタル場合ニ於テ明確ニス可キ事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ其陳述ヲ拒ミタルトキハ口頭辯論ノトキニ至リ之ヲ追完スルヿヲ許サヽルモノトス然レトモ受命判事ノ調書ヲ以テ之ヲ明確ニセサルモノニ付テハ强チ其追完ヲ許サヽルニアラス左ノ二條件ヲ具備スルニ於テハ口頭辯論ニ至リ主張スルヿヲ許スナリ

第一　受命判事ノ調書ヲ以テ之ヲ明確ニセサル事項ナルトキ

第二　後日ニ至リ始メテ生シ又ハ始メテ原告若クハ被告ノ知リタ

ルヿ

此ノ二條件ヲ備フル場合ニ於テハ強チ準備手續ノミ陳述セサリシモノヽ過チナリトモ言フ可ラサルヲ以テ其理由ヲ疏明スルヿハ之ヲ主張スルヿヲ許スナリ

第五節　證據調ノ總則

(義解)(二二三)前既ニ述フルカ如ク何レノ當事者ニ擧證ノ任アルカヲ定メ爭論ノ目的ニ從ヒ或ハ許容シ又ハ必要トスル證據ノ諸種ノ方法ヲ定メ各證據ノ當事者雙方ノ間ニ生スル効力又ハ裁判官ニ對スル効力ノ定度ヲ定ムルカ如キハ民法ニ於テ規定スヘキモノナリ之ニ反シ裁判所ニ於ケル各證據ノ作用ニ至ツテハ訴訟法ニ讓ルヘキモノナリ(人證ヲ以テ其一例ト爲サン)ニ此證據ヲ受理スヘキ制限ノ如キハ民法ニ規定スヘキモ此證據ヲ裁判所ニ呈出スルニ當リ證人ヲ召喚スルノ方式如何之ヲ召喚スヘキ期限如何之ヲ訊問スヘキ方式如何有効ニ召喚スルヲ得サル證人又ハ嫌疑アルモノトシテ忌避スルヲ得ヘキ證人如何出廷セサル懲罰如何等ニ至リテハ固ヨリ訴訟法ニ讓ルヘキモノナリ(本節ニ云フ所ノ證據調トハ民法ニ屬スル證據ノ効力ヲ調フル

ニアラスシテ只其作用ノ調ヘヲ爲スモノナリ佛蘭西伊太利日耳曼白耳義和蘭ノ如キハ矢張リ我日本ノ民法訴訟法ノ如ク證據ノ効力ハ民法ニ規定シ其作用ハ訴訟法ニ讓リタリ蓋シ此規定タル法理上ノ原則ナルヘシ

當事者ノ内原被何レニ擧證ノ義務アルヤハ民法ニ屬スル問題ナレ共裁判官ハ證據調ヲ爲スニ當リテ何レノ當事者ニ其證據ノ提出ヲ命スヘキヤヲ定メサル可カラス茲ニ其原理ヲ一言セン古昔ノ羅馬法理ニ於テハ證據ハ原告人ノ責ニ歸スト云ヘリ此法理タル未タ其理ヲ盡シタルモノニ非ラス何故トナルニ證據ハ必シモ原告ノ責ニ歸スヘキモノニ非ラス被告ニ於テモ又證據ヲ提出セサル可ラサルノ義務アリ例ヘハ一ノ貸金證書ヲ以テ原告ヨリ出訴シタルトキ被告ニ於テ之ヲ認諾セサルトキハ其認諾セサル理由ノ證據ヲ擧ケサル可ラス之ヲ一言ニシテ云ヘハ攻擊ノ方法ニ至リテハ原告ニ擧證ノ責アリ防禦ノ方法ニ至リテハ被告ニ擧證ノ責アルモノトス又古昔ノ法理ニ有的ノ事實ヲ主張スルモノハ之ヲ證明スル無的ノ事實ヲ主張スルモノハ之ヲ證明シ無的ノ事實ヲ主張スルモノハ之ヲ證明スルヲ要セスト云ヘリ此事タル未タ其理ヲ盡サス無的ノ事實ト雖モ必シモ證明シ得サルモノニアラス例セハ原告ヨリ某月某日被告ハ隅田川ニ行キタルヿアリト主張シ被告ハ之ヲ防禦スルニ只行キタルコト無シト云フノミヲ以テセス原告ノ主張スル月日ニ於テハ用事アリ他所ニ行キタルコトヲ以テ證據ト爲スヿヲ得ヘシ故ニ無的ノ事實ヲ主張スル者ト雖モ有的ノ事實ヲ引用シテ證據ト爲スヿヲ得ルナリ以上二個ノ法理ハ民法ニ屬スルヲ以テ其詳細ナルヿハ今茲ニ論セス

裁判官ハ證據調ヘヲ爲スニ當リ當事者提出ノ證據ヲ不用ナリトシテ排斥スルヿヲ得ルノ權アリヤ否ヤ例セハ證據物ヲ甲第一號ヨリ甲第

十號迄ヲ提出シタルニ五號以下ハ不用ナリトシテ其提出ヲ拒ムヿヲ得ルヤ否ヤ此事ニ就キテハ二個ニ分ツテ答ヲ爲サヽル可ラス即チ當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其訴訟事件ニ必要ノ證據ナルヤ否ヤ從ツテ其取調フヘキ限度如何ハ裁判所ニ於テ定ムルノ權アリ然レヒ當事者ノ申立テントスル證據ニ對シ未タ一應ノ取調ヲ爲サスシテ其提出ヲ拒ムヿハ決シテ裁判所ノ爲シ得ヘキ所ニ非ラス何トナレハ一應ノ取調ヲ爲スニ非ラスンハ果シテ訴訟事件ニ必要ナル證據ナルヤ否ヤ未タ知リ得ヘキ者ニアラス或ハ已ニ取調ヘアリタル證據ヨリ却テ優レルノ證據ナルヤモ知ル可ラス左レハ當事者ノ申立タル數多ノ證據中ニ付其必要ナルヤ否ヤヲ定ムルハ裁判所ノ權內ニアリト雖モ當事者ノ申立ントスル證據ニ對シテ其提出ヲ拒ムヲ得サルモノト知ルヘキナリ

證據調ニ二樣アリ第一ハ當事者ノ申立テタル證據ヲ調フルヿ第二ハ裁判所ノ職權ヲ以テ取調フルコト是ナリ元來訴訟法ハ不干涉主義ヲ取リタルヲ以テ裁判所ハ當事者ニ對シ證據ヲ提出セヨト命令スルノ權ヲ有セス當事者ノ隨意ニ提出シタル證據ニ對シ其是非曲直ヲ判決スヘキモノナリ故ニ訴訟ノ或ル定度ニ至ル迄ニ於テ充分ノ證據ヲ提出セサル相手方ハ敗訴ニ歸スヘキモノナリ然レヒ當事者ノ提出スヘキ證據ニシテ其提出ヲ要スルモノト然ラサルモノトアリ其提出ヲ要スル證據ニシテ之ヲ證明セサルヒハ其者ノ不利ニ歸スト雖モ提出ヲ要セサルモノニ至リテハ必シモ不利ニ期スルノ限リニ非ス例ヘハ現行法ノ如キ一般ノ習慣ノ如キ第二百十八條ニ規定セル裁判所ニ於ケル顯著ナル事實ノ如キ之ヲ證明スルヲ要セス何トナレハ之ヲ證明セサルモ當然裁判所ハ之ヲ知リ得ルヲ以テ只ニ其證明ヲ要セサルノミ

ナラス證據調ヲ爲スニモ及ハサルナリ裁判所ノ職權ヲ以テ取調フヘキモノトハ地方慣習法ノ如キ商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ノ如キハ當事者ニ於テ之ヲ證明セサルトキハ職權ヲ以テ必要ナル取調ヲ爲スヿヲ得又裁判所ニ於ケル現訴訟若クハ他ノ機關ニ付キ生シタル事實又ハ官廳ヨリ裁判所ニ公然通知セラレタル事實又ハ裁判官ノ有スヘキ學識ニヨリ知ラサルヘカラサルノ事實又ハ普通ノ學識ヲ有スルモノニシテ書籍地圖等ニヨリ確カニ知リ得ヘキ事實等ハ職權ヲ以テ取調フルコトヲ得ルナリ此レ等ノ事實ハ當事者ニ於テ證明セサルモ自然裁判所ニ於テ知リ得ヘキ顯著ナル事實ニ屬スルヲ以テ證據調ヲ爲スニ及ハサルナリ

第二百七十三條　證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ通例トス

證據調ハ此法律ニ定メタル場合ニ限リ受訴裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

此證據調ヲ命スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔義解〕(二三四) 本條第一項ハ裁判ハ判事ノ自由ナル心證ヲ以テ爲スト云ヘル原則ノ結果ヲ定メタルモノナリ則チ證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲サヽル可ラス此事タル判事ノ心證ヲ作クル點ニ付必要欠クヘカラサルモノトス其故ハ凡ヲ訴訟事件ヲ判決スルニハ證據ノ優劣ヲ取調ヘ以テ自由ナル心證ニ因リ之ヲ判決スルモノナレハ其證據調ヲ爲シタル判事ニ於テ判決ヲ爲スヿ誠ニ心證ヲ作ルノ基本トナル可キモノナレハナリ然レ𪜈時トシテ證據調ヲ受訴裁判所ニ於テ爲シ

能ハサルヿアリ例セハ證人訊問ノ場合ニ於テ其證人ハ受訴裁判所ヨリ遠隔ノ地ニ住居スルトキハ之ヲ呼出スニ公私共ニ不便ナルヘシ此場合ニ於テハ其住居地ノ區裁判所ニ囑托シテ證人訊問ヲ爲スコトアルヘシ又第二百六十六條以下ニ規定セル計算事件財産分別事件ノ如キ受訴裁判所ニ於テ本案ノ審理ト共ニ證據調ヲ爲スコト甚タ不便ナリ故ニ受訴裁判所ノ部員一名ニ命シテ證據調ヲ爲サシムルコトアリ是レハ第一項ノ例外ナリトス今第一項ノ例外ノ場合ヲ示サンニ則チ左ノ如シ

第一　皇族證人ナルトキハ受命判事又ハ受托判事其所在ニ付訊問ヲ爲ス

第二　各大臣ニ付キテハ受名判事又ハ受托判事其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滯在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス

第三　眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ付キ證人ヲ訊問スルノ必要ナルトキ

第四　證人カ疾病其他ノ事故ノ爲メ受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ

第五　證人カ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在リテ其裁判所ニ出頭スルニ付キ不相應ノ時日及ヒ其費用ヲ要スルトキ

第六　鑑定ヲ受訴裁判所ニ於テ必要トスルトキ

第七　口頭辯論ノ際證書ヲ提出スルニ於テハ其毀損若クハ紛失ノ恐レアリ又ハ他ノ顯著ナル障害アルトキ受訴裁判所ハ檢證ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

以上ノ場合ニ於テハ受訴裁判所ハ其部員一名ニ之ヲ命シ又ハ區裁判

所ニ囑托シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ此證據調ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴又ハ抗告等ヲ爲スヿヲ許サス其理由他ナシ本條第二項ノ規定ハ素ト便益法ニ出テタルモノニシテ當事者ノ權利ニ影響ヲ及ササルモノナレハ不服ヲ申立ルノ必要ナシ若シ其不服ノ申立ヲ許ストキハ徒ラニ訴訟ノ遲延ヲ來スニ至ラン之レ第二項ノ決定ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サヽル所以ナリ

第二百七十四條　當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ハ裁判所之ヲ定ム

當事者ノ演述ニ引續キ直チニ證據調ヲ爲サスシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之ヲ爲シ又ハ受命判事若クハ受托判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘキトキハ證據決定ニ因リ之ヲ命ス可シ

〔義解〕（二三五）本條第一項ハ證據調ノ限度ハ裁判所ニ於テ定ムヘキ旨ヲ定メタルモノナリ元來當事者ノ其主張スル所ノ事實ヲ證明セントスシテ申立タル證據ハ盡ク其調ヲ爲スヘキモノナリト雖モ又之ヲ盡ク調フルノ必要ナキ場合アリ例セハ同一ノ事實ヲ證スル爲メ數人ノ證人ヲ請求シタル如キ又ハ數個ノ官廳公吏等ヨリ同一ノ證書ノ送附ヲ請求シタルトキノ如キハ其限度ヲ定メテ證據調ヲ爲スヿヲ得ルナリ尤モ其限度ヲ定ムルニ當リテハ其內必要ト思量スル證人又ハ公吏ノ證據調ヲ爲スヘキモノトス斯ク裁判所ニ其限度ヲ定メテ證據調ヲ爲シ結了スト雖モ判決ヲ爲スニ充分ノ心證ヲ得サルトキハ再ヒ口頭辯論ヲ開キテ證據調ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第二項ハ證據調ヲ爲スニ當リ決定ヲ爲スヘキ場合ト然ラサル場合トヲ定メタルモノナリ則チ受訴裁判所ニ於テ新期日ヲ定メテ證據調ヲ